

2. 3 干拓地の特徴を活かした観光に係る検討

本章の目的は、干拓地の特徴を活かした「観光」を検討し、実際に想定される観光メニューやそのスキームを検討することである。

しかしながら、このことは「干拓地の観光地化ではない」ということを十分に認識する必要があると考える。

諫早湾干拓事業は、平野部の少ない長崎県において大規模で平坦な優良農地の造成による生産性の高い農業の実現と背後地における高潮、洪水、常時排水不良等に対する防災機能強化という目的のために実施されており、併せて、入植者の全てのエコファーマー認定や太陽光発電、バイオマス燃料の活用による環境保全型農業の実現に向けた研究等を行うこととなっている。

日本を代表する様なエコフィールド創出の取り組みが、諫早湾干拓地の付加価値向上、誘客インセンティブとなり、設置目的に沿った効用を促進するための取り組みによる、2次的効果として観光的要素が生み出されるものであれば、それらを有効に活用し、経済の活性化、ついでに地域の再生に向けて積極的に取り組む必要がある。

このことから、その目的、効果を阻害することなく、更に地域資源として有効に活用し、交流人口の拡大、ついでに地域振興につながるような方策を「農業」「環境」「観光」を切り口として検討を進める。

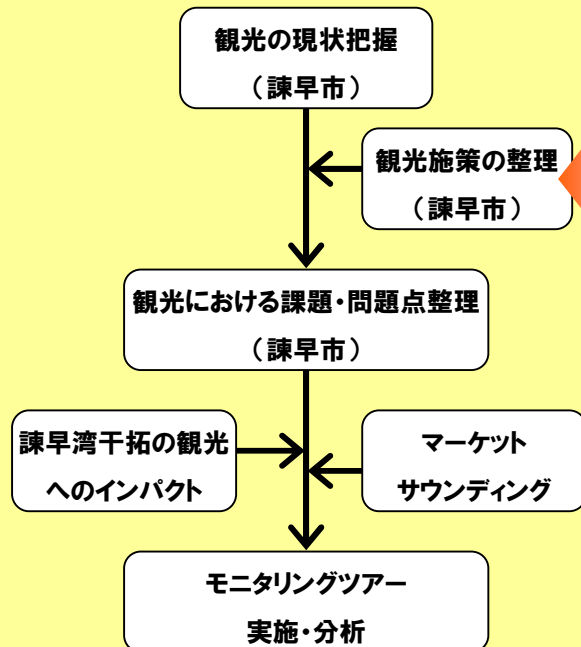


干拓地の特徴を活かした観光を検討するに当たって、干拓地の地域資源としてのポテンシャルを引き出すためには、干拓地エリアだけではなく、その所在する諫早市や周辺市町の観光資源、地域資源まで含め、面として検討していく必要があると思われる。

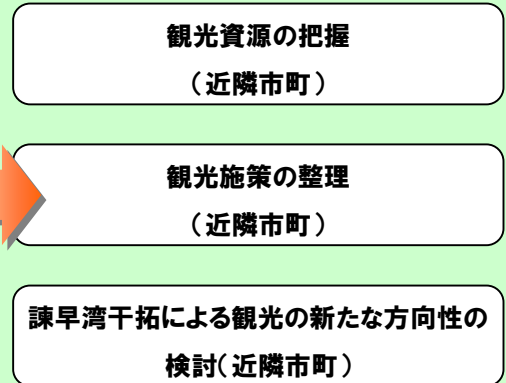
そこで、干拓地の有効活用を主眼に置きながら、以下のようなフローに沿って様々な切り口から観光政策の方向性、課題・問題点などを抽出し、諫早湾干拓地を中心とした新たな観光スキームの構築を検討していく。

新たな観光スキーム検討フロー

① 諫早湾干拓地及び周辺地域における観光力の検証



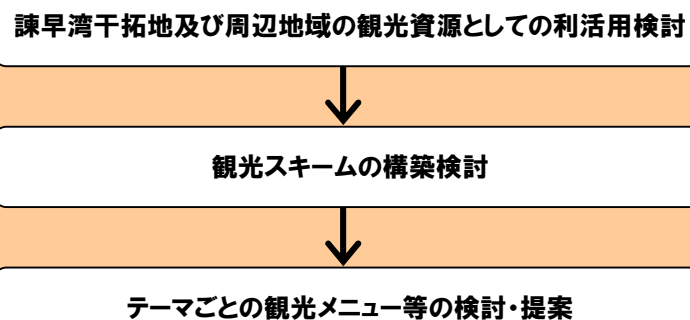
② 近隣市町等との連携可能性検討



諫早市との連携スキーム構築

諫早湾干拓地及び周辺地域を活かした
観光の方向性 (諫早市)

③ 諫早湾干拓地を中心とした新たな観光スキーム構築と具体的手法の検討



2. 3. 1 諫早湾干拓地及び周辺地域における観光力の検証

1) 全国における観光動向

日常生活において、全国的に「レジャー・余暇生活」が重視されている。

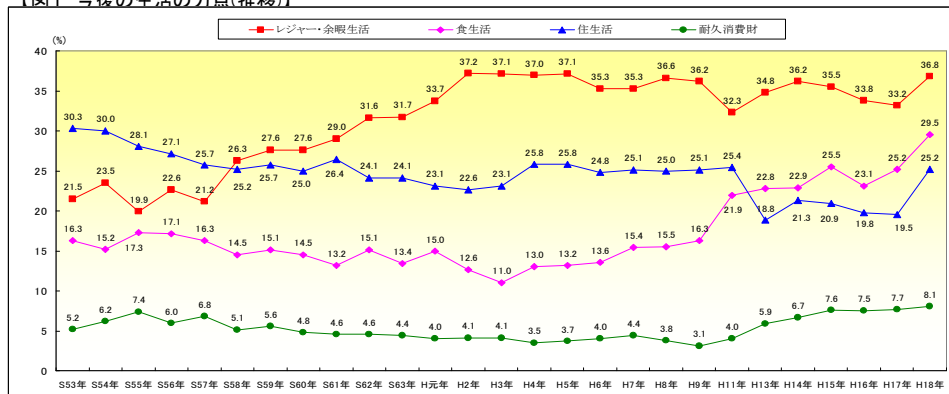
「観光白書 平成 19 年」（国土交通省）によると、今後の生活で力点をおきたい分野の推移を見ると、昭和 58 年以降「レジャー・余暇生活」が上昇傾向で高い水準を維持している。また、「食生活」についても、平成 3 年以降それまでの低下傾向から上昇傾向に転じ、平成 9 年以降は大幅に上昇している。（図表 1 参照）

また、内閣府の「国民生活に関する世論調査」において、「今後の生活において、特に力を入れたいもの」としても「レジャー・余暇生活」が 36.8% で最多、次いで「所得・収入」29.9%、「食生活」29.5% となっている。（図表 2 参照）

また、1 人あたりの旅行回数、宿泊数については、平成 17 年度から平成 18 年度にはともに低下傾向を示しており、旅行の短期化がうかがえる。

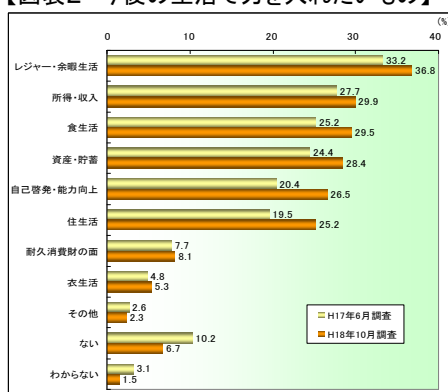
また、旅行の形態についても、団体から個人へ移るとともに、各個人の旅行に対するニーズも多様化してきている。

【図1 今後の生活の力点(推移)】



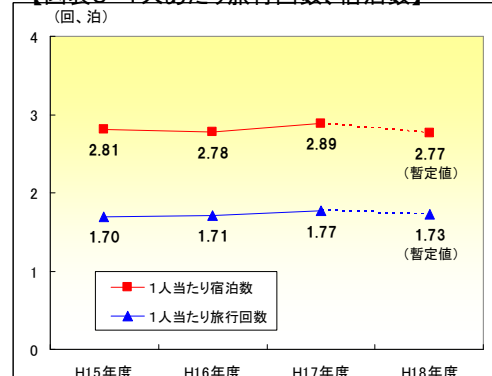
(出典:観光白書(H19)より)

【図表2 今後の生活で力を入れたいもの】



(参考:内閣府「国民生活に関する世論調査」)

【図表3 1人あたり旅行回数、宿泊数】



(参考:国土交通省「旅行・観光消費動向調査」より)

2) 諫早市の観光動向

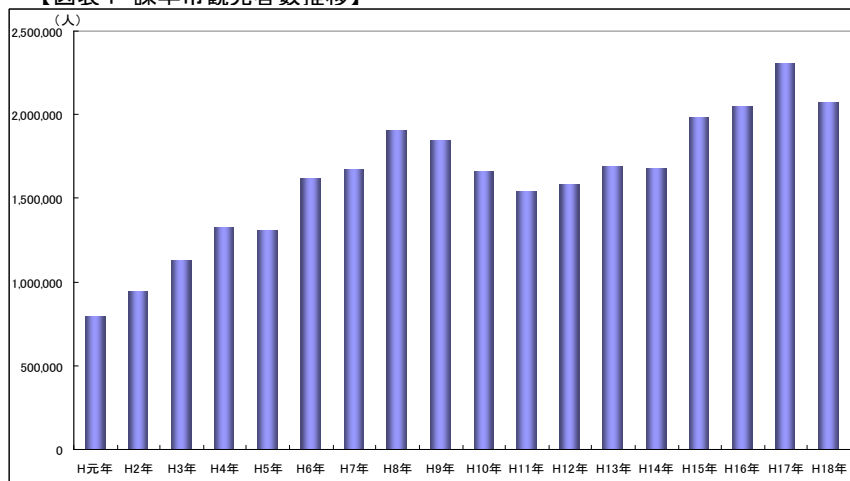
諫早市への観光は、「ちょっと立ち寄り型」で近場の人が多く訪れる。

■観光客数

諫早市への観光客数については、図表4のとおり、平成8年まで増加し、一旦は減少に転じたものの、平成12年以降は再度、増加傾向に転じ平成17年は近年では最多の約230万人に達している。

また、長崎県全体の観光客数における諫早市の観光客数の割合（図表5）を見ていくと、平成18年を除き、平成12年以降は上昇傾向である。このことから、長崎県内における諫早市の観光地としての魅力アップ、相対的な観光客増加がうかがえる。

【図表4 諫早市観光客数推移】

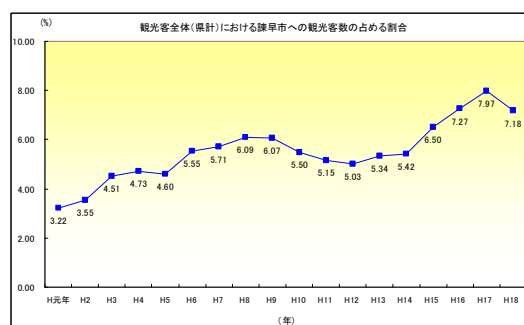


(参考: H18長崎県観光統計を基にシクながさき作成)

(単位:人)									
H元年	H2年	H3年	H4年	H5年	H6年	H7年	H8年	H9年	H10年
788,983	940,039	1,127,845	1,330,701	1,306,416	1,618,719	1,671,693	1,907,862	1,846,392	1,658,533

H11年	H12年	H13年	H14年	H15年	H16年	H17年	H18年
1,539,884	1,583,827	1,689,935	1,673,953	1,980,401	2,049,494	2,303,984	2,073,699

【図表5 長崎県全体の観光客数に占める諫早市の観光客数の割合推移】



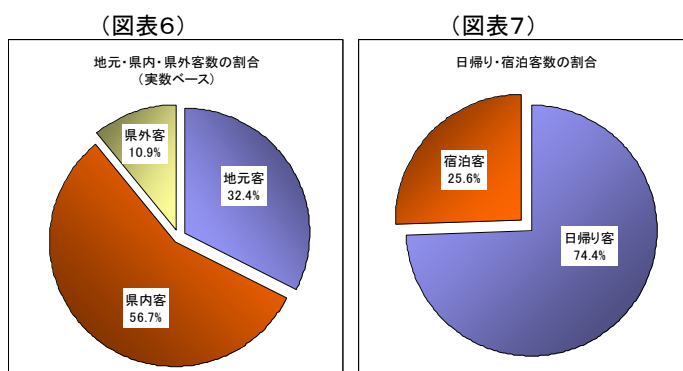
(参考: 長崎県観光統計を基にシクながさき作成)

■観光客の属性

諫早市を訪れる観光客の内訳を見ていくと、地元客・県内客が 89.1%で県外からの観光客は非常に少ない。(図表 6 参照)

また、日帰り客・宿泊客については、図表 7 のとおり、日帰り客が 74.4%と非常に多くなっている。

つまり、諫早市を訪れる観光客は、地元又は近隣からの「ちょっと立ち寄り型」であることがわかる。



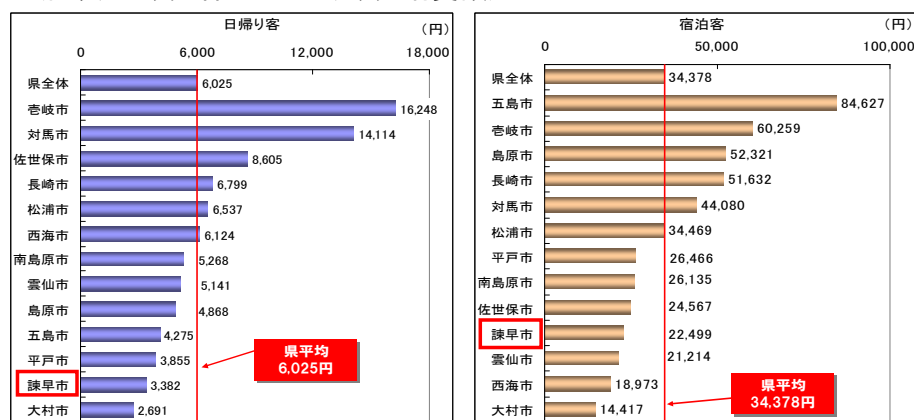
(参考: 長崎県観光統計を基にシンクながさき作成)

■観光消費

観光客が訪問地で消費するお土産代など、観光客 1 人当たりの観光消費額 (図表 8) では、諫早市は長崎県内の市部の中では、日帰り客、宿泊客とも低位である。

このことは、前項の属性のとおり、地元客が多く、観光消費を促す様なスキーム構築ができていないことが主な要因であると思われる。

(図表 8 観光客 1 人当たり観光消費額)



(参考: 長崎県観光統計を基にシンクながさき作成)

■修学旅行

長崎県は従来から国内での修学旅行先としては定番だったものの、近年は沖縄、北海道の人気の高まりにより、年々修学旅行性は減少傾向である。

その様な状況の中で、平成 18 年において諫早市をはじめ松浦市、五島市、新上五島町では修学旅行宿泊者数は増加傾向となっている。(図表 9)

近年、修学旅行においては、「体験学習」など教育的内容が重視される傾向にあり、それらのメニュー、受け入れ態勢の整備を進めることで更なる増加を図ることも可能であると思われる。

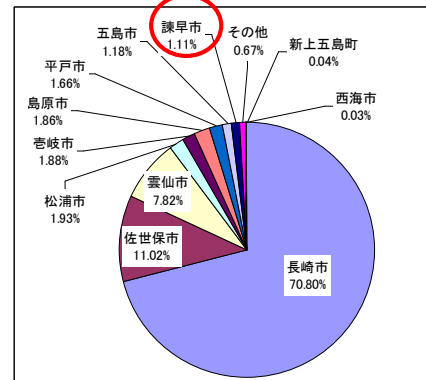
(図表 9 修学旅行宿泊数)

(単位:人)

		H16年	H17年	H18年	対前年比(%)
1	長崎市	300,322	288,700	277,000	▲ 4.1
2	佐世保市	46,932	43,437	43,111	▲ 0.8
3	島原市	11,454	8,286	7,268	▲ 12.3
4	雲仙市	41,619	36,306	30,597	▲ 15.7
5	諫早市	5,421	4,092	4,346	▲ 6.2
6	大村市	0	0	0	—
7	西海市	156	291	134	▲ 54.0
8	平戸市	11,746	11,366	6,477	▲ 43.0
9	松浦市	4,199	4,798	7,563	57.6
10	五島市	1,570	3,642	4,631	27.2
11	新上五島町	0	104	155	49.0
12	壱岐市	11,962	9,503	7,343	▲ 22.7
13	対馬市	31	182	0	▲ 100.0
14	その他	3,596	3,100	2,637	▲ 14.9

(参考:長崎県観光統計より)

(図表 10 平成 18 年修学旅行宿泊地域)



(参考:長崎県観光統計)

諫早市に於ける観光資源については、公園や自然をテーマにした施設（場所）が多い。

しかし現在は、これらは単体(点)としての観光スポットとして活用されているものの、複数の観光資源をテーマ性、ストーリーによって結びつけた面としての観光はほとんど行われていないと思われる。



市町名	分野	スポット	概要
諫早市	温泉	いいもり月の丘温泉	町民総合運動場内にオープンした温泉施設。館内にはナトリウム塩化物泉の源泉を利用した一般内湯、露天風呂、家族風呂やサウナなどの他に、健康増進を目的とした「歩行湯」が目玉施設となっている。
諫早市	施設	諫早ゆうゆうランド干拓の里	干拓の歴史の紹介、模型・生物等を展示する世界でも類を見ない干拓専用資料館や本明川に生息する生物を展示する水族館などがある、複合的な体験学習施設。
諫早市	施設	いこいの村長崎	大自然のパノラマを眺めながら、心も体もリフレッシュ。宿泊、会議、宴会・パーティー、婚礼等が可能で、トロン温泉、カラオケルーム、野外施設等もある。
諫早市	施設	山茶花高原ハーブ園	アプローチゾーンと香りの庭園には合わせて約2万平方メートルの広さに約250種類のハーブが植えられ、特に香りの庭園は日本でも希少なハーブの本格的フォーマルガーデンとして有名である。
諫早市	施設	コスモス花宇宙館	反射型天体望遠鏡400mm(最高倍率607倍)1台、屈折型天体望遠鏡150mm(最高倍率340倍)2台を備えており、本格的な天体観測ができる。天体望遠鏡と連動した150インチの3Dハイビジョンでは、リアルな画面で天体の学習などを楽しめ、遙か宇宙を身近に感じれる。
諫早市	施設	のぞみ公園	公園は野外ステージやローラースケート場、パットゴルフ等遊具もあり、海と山に囲まれた芝生広場の中でゆっくりとした時間を過ごすことができる。
諫早市	施設	国立諫早少年自然の家	白木峰高原に位置する当青少年自然の家は、学校、少年団体やその他職場、クラブ、サークル、ファミリー等の団体が自然体験活動、レクリエーション、各種研修等を行うことができる施設である。
諫早市	施設	月の丘公園	自然の丘陵地を利用した公園で園内には児童向けの遊具なども設置されており、展望台からは開平野が一望できる。総合運動場や総合体育館、月の丘温泉などが隣接してあるため、家族連れで一日中楽しめる公園。
諫早市	自然	轟峡・轟峡キャンプ村	大小30余の滝や奇岩、渓谷美の名水百選「轟溪流」として親しまれ、蜚・かじか・サワガニ・ヤマメ等の動植物が豊富である。キャンプ場は、14部屋のバンガロー、テントは15張り収容可能。
諫早市	自然	山茶花高原ピクニックパーク	山茶花高原ピクニックパークは眺望がよく、対岸には有明海を経て雲仙岳、そして遠くは熊本まで見渡せロケーションとなっている。
諫早市	自然	結の浜マリンパーク	壱岐の砂を使った人口の海水浴場。
諫早市	自然	諫早公園	高城城跡を公園としたもので、「つつじ公園」の名がある。全山が国指定天然記念物「諫早市城山暖地性樹叢」におおわれている。
諫早市	自然	白木峰高原	五家原岳の中腹に位置し、有明海、雲仙岳を背景に花が咲き、一年を通してハイキングに最適な高原。
諫早市	自然	唐比ふれあい牧場	唐比湿地公園内に放牧場のほか牛舎や小動物など5つの畜舎に、牛・豚・馬・リス・マールなど約20種類の動物を飼育しており、かわいい動物たちと自由に触れ合うことができる。
諫早市	自然	上山公園	「森林浴の森 日本100選」として選定を受けた諫早市で最大の公園。
諫早市	自然	唐比ハス園	唐比湿地公園内の約2km ² のハス池に、各13種類のハスと睡蓮などが5月初旬から10月まで花を咲かせる。散策用に木造が設置されており、豊かな自然を満喫しながら間近で美しい花々を楽しむことができます。
諫早市	自然	自然干陸地フラワーゾーン	春は菜の花、秋はコスモスで一面彩られる、県内はもとより県外からも観光客が訪れる県央地区の花の名所となっている。
諫早市	自然	いこいの森たかき	緑いっぱい空間。絶景の展望広場には、子供向けの遊具があり、休日には家族連れなどで賑わっている。
諫早市	自然	小長井のオガタマノキ	樹高20m、幹の周りが9.1m、樹齢1,000年以上であり、オガタマノキとしては日本一のもの。
諫早市	自然	女夫木の大スギ	杉の木で国の天然記念物に指定されているものは約40本あり、この杉の大きさは中位程度で、県内では最も大きい。
諫早市	自然	唐比海岸	雲仙や天草の島々が一望できる唐比海岸は、新観光百選に選ばれた美しい海岸である。
諫早市	自然	琴ノ尾公園	多良見の最西端に位置する標高451mの琴ノ尾岳山頂にある公園。展望台からは360度のパノラマ風景が広がり、大村湾に浮かぶ長崎空港を眺めることもできる。
諫早市	自然	多良見オレンジロード	多良見を縦断する国道207号線は、オレンジロードと呼ばれるほど、絶好のドライブコースとして知られている。
諫早市	自然	西川内・中里虚空蔵山公園	虚空蔵山公園は、木製の展望台から大村湾や普賢岳などを一望することができる。グラウンドやアスレチック遊具も整備されており、スポーツも楽しめる。
諫早市	自然	唐比展望公園	春から秋までは季節の花が咲き、芝生広場では草スキーを親子で楽しめる。。「次代に残そう長崎百景」に選ばれるほど美しい橘湾や、雲仙岳・島原半島を望む絶景が広がっている。
諫早市	食	農村レストラン「ゆたっと」	地産地消のイタリアンレストラン「ゆたっと」は、「森山産野菜たっぷりビザ」など地場農産品を使用した田舎風イタリアンと創作郷土料理のレストラン。市内で生産された新鮮な旬の食材を、田園風景の中でゆっくりと楽しめます。
諫早市	食	長崎街道みかん宿	多良見町は全国的に有名な伊木力みかん産地として有名であり町内の農家を中心に約250名でグループを結成し実行委員会方式で農産物を直売している。
諫早市	歴史	天祐寺	諫早家の菩提寺である天祐寺は、西郷尚善の開基である。諫早家墓所には、初代龍造寺家晴公から十八代家興公までの墓があり、「弥勒四十九院」作りといわれる特徴的なつくりなど、鎮島藩の色を濃く残している。

4) 諫早市における観光施策の現状

諫早市においては、豊かな観光資源の活用に加え、長崎国体の開催（メイン会場）、九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）の本格着工を契機とした更なる観光振興による地域・経済の活性化を図っている。その指針となる諫早市観光基本計画の策定も予定されている。

現時点においては、「観光案内標識等設置事業」によるドライバー用誘導板、歩行者誘導板、観光案内板の設置や「ボランティアガイド育成事業」によるボランティアガイドの養成、観光ガイドマップ作成などを実施し、「諫早観光協会」や「諫早ボランティア観光ガイドの会」との連携強化や支援も実施している。

しかしながら、市内観光資源間の連携や関連づけ、観光ルートとしての提案はあまり出来ていない状況であり、今後、観光協会等を中心とした市内観光資源の掘り起こしや面的観光の推進を図り、現在の“ちょっと立ち寄り型”で観光消費が少ない観光形態から消費促進・長期滞在型の観光形態への転換が課題となっている。

5) 諫早市の観光における課題・問題点整理

■諫早市の観光についてのSWOT分析

強み(Strengths)	弱み(Weaknesses)
・ 交通アクセスが便利 ・ 長崎新幹線の開通予定 ・ 県内穀倉地帯で豊かな農産物 ・ スッポン、鰻の産地 ・ 観光客が増加傾向 ・ 多方面への移動が可能（県北、県南。島原） ・ 陸上競技場が整備されている ・ 平地部が多い ・ 自然が豊か	・ 知名度が低い（特に県外） ・ 観光地としてのイメージが弱い ・ 目玉となる観光スポットが少ない ・ 夜の観光スポットが少ない
機会(Opportunities)	脅威(Threats)
・ 諫早湾干拓事業の完成 ・ 若い女性を中心に美容・健康ブーム ・ ウォーキング愛好者の増加 ・ 食の安全・安心が求められている ・ 市町村合併による観光資源の増加	・ 他地域との誘客合戦 ・ 潮受け堤防道路による諫早市の素通り ・ 観光客の志向変化 ・ 長崎県への観光客の減少



観光戦略パターン	課題	問題点
【S&O】 積極推進型観光	・誘客テーマの設定 ・ニーズにマッチングした観光商品の造成 ・誘客促進のためのハード整備	・牽引組織の不在 ・業種間の横断的連携不足
【S&T】 差別化推進型観光	・面的観光の促進 ・近隣市町との連携 ・市内での回遊性確保	・宿泊インセンティブ不足 ・差別化要因不足
【W&O】 巻き返し型観光	・積極的な広報 ・テーマごとの拠点施設整備	・ニーズの把握不足 ・観光への認識不足
【W&T】 危険回避型観光	・知名度アップ ・域内交流の拡充 ・他地域との棲み分け(役割分担)	・観光消費の大幅な増加が見込めない ・市内業者のモチベーション維持が困難

6) 諫早市における諫早湾干拓地の位置づけ

今回、諫早湾干拓事業の完成により中央干拓地をはじめとする多くの地域資源が創出され、これまでにない大規模農業が実施されることとなる。

また、太陽光発電やバイオマスエネルギーを活用した環境保全型農業についても、順次実用化に向けた検討が進められる事となっている。

それらを踏まえ、長崎県や諫早市では、観光関連の各種計画、施策の取り組み方針などにおいて、諫早湾干拓地の活用を打ち出しており、概要については以下のとおりである。

長崎県

■長崎県観光振興計画(地域別)

【諫早湾干拓地域の活用】

体験学習の場としての活用、環境保全型農業の生産物などが楽しめる商品の開発など、新たな観光資源として有効活用に取り組む

■諫早湾干拓調整池水辺環境の保全と創造のための行動計画(H20～24)

【自然豊かな水辺空間づくり】

生物多様性に富んだ水辺空間づくりを推進し、その活用を図るとともに環境教育の拠点づくりに努める。

諫早市

■諫早市長期総合計画(基本計画)

【干拓資源を活かす拠点づくり】

入植農業者の営農計画達成のための支援や水質保全対策、水辺などの総合的な活用を図り、都市と農村の交流を図る交流型農業、農村づくりに取り組む。

■諫早市地域振興計画(H19.3)

【高来地域のまちづくり】

諫早湾干拓事業で出現した広大な「干陸地」など、豊かな自然を活かしたまちづくりを推進。

【干陸地利活用の推進】

- ・総合的な利活用計画が策定されていない。
- ・公園、多目的広場、体験学習の場、交流拠点などいろいろな活用の可能性が考えられる。
- ・干陸地の適正な管理が必要。

■諫早市都市計画マスタープラン(素案)

【森山・諫早東部地域】

- ・地域づくりの課題→諫早湾干拓地の新たな資源活用と農業経営の継続
- ・地域づくりの目標→干拓地や山の緑に囲まれた、静かな環境の地域づくり

7) マーケットサウンディング

諫早湾干拓地において、地域資源を有効活用しながら「農業」、「環境」、「観光」の融合を図っていくためには、観光客のニーズを的確に把握し、「ツボ」に合った観光施策や観光メニューを検討していく必要がある。

そこで、諫早湾干拓地のみならず、諫早市における観光へのニーズを把握するため、インターネット調査により、誘客ターゲットと想定される地域（長崎県内、東京都、大阪府、福岡県、佐賀県、熊本県）に対してアンケート調査を実施した。

調査概要

調査方法 : インターネット調査（実施会社 楽天リサーチ㈱）

調査期間 : 平成 20 年 2 月 28 日～3 月 3 日（5 日間）

調査対象地域 : 長崎県内、長崎県外（東京都、大阪府、福岡県、佐賀県、熊本県）

サンプル数 : 長崎県 300 サンプル

長崎県外 800 サンプル

（東京都 300、大阪府 200、福岡県 100、佐賀県 100、熊本県 100）

質問項目数 : 10 問

質問内容 :

【長崎県内】

- Q 1 あなたの「観光」「レジャー」の主な目的を 1 つお選びください。
- Q 2 これまでに、観光、レジャーなどで諫早市を訪れたことがありますか？
- Q 3 あなたが諫早市を訪れた目的は何ですか。
- Q 4 観光地としての諫早市のイメージについて
- Q 5 あなたが、諫早湾干拓事業について知っていること
- Q 6 あなたは、諫早湾干拓地へ行ってみたいと思いますか？
- Q 7 どのような事業が実施されれば、当該干拓地を訪れたいと思いますか？
- Q 8 諫早市（諫早湾干拓地を含む）を観光、レジャーで訪れる条件は何ですか？
- Q 9 あなたが諫早市（諫早湾干拓地を含む）を観光、レジャーで訪れる場合、誰と行きたいですか。
- Q 10 あなたが諫早市を訪れる場合、他に長崎県内のどの地域を訪れたいですか？

【長崎県外】

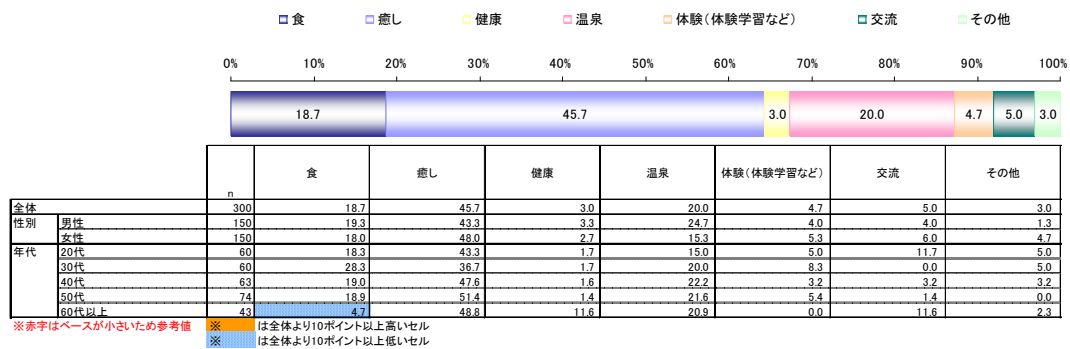
- Q 1 あなたの「観光」の主な目的を 1 つお選びください。
- Q 2 これまでに、観光で長崎県を訪れたことがありますか？
- Q 3 これまでに、観光で長崎県諫早市を訪れたことがありますか？
- Q 4 長崎県内で知っているもの（ところ）を全てお選びください。
- Q 5 観光地としての諫早市のイメージについて
- Q 6 あなたは、諫早湾干拓地へ行ってみたいと思いますか？
- Q 7 どのような事業が実施されれば、当該干拓地を訪れたいと思いますか？
- Q 8 諫早市（諫早湾干拓地を含む）を観光で訪れる条件は何ですか？
- Q 9 あなたが諫早市（諫早湾干拓地を含む）を観光で訪れる場合、誰と行きたいですか？
- Q 10 あなたが諫早市を訪れる場合、他に長崎県内のどの地域を訪れたいですか？

(a) 調査結果

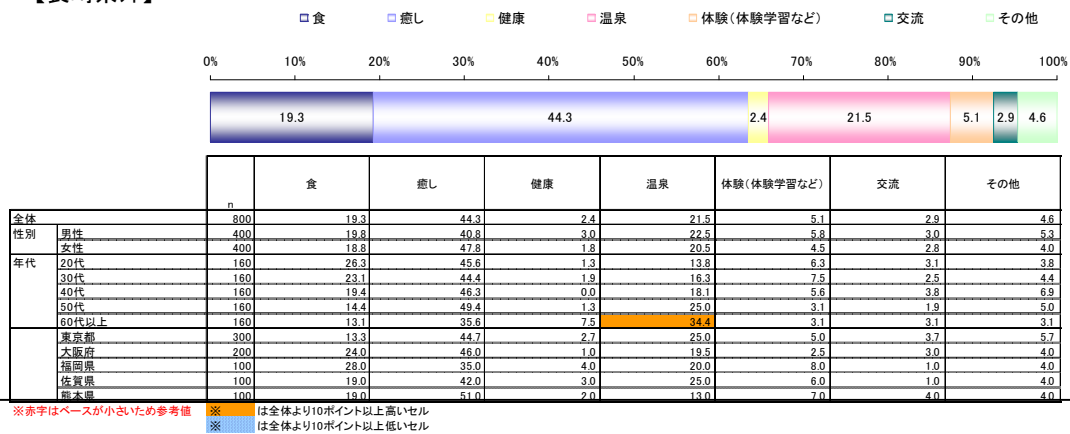
「観光・レジャー」の目的

「観光・レジャー」の目的は、県外、県内とも「癒し」が最多であり、次いで「温泉」となっており県内外における観光の目的に大きな違いがないことがわかる。

【長崎県内】



【長崎県外】

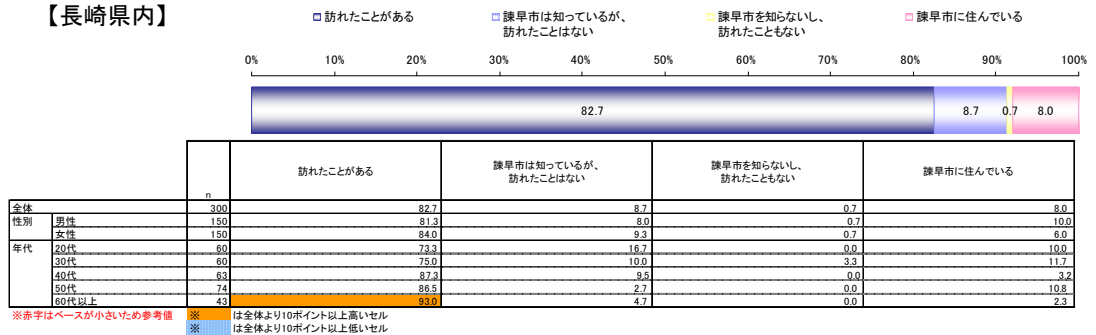


「長崎県及び諫早市の訪問経験」

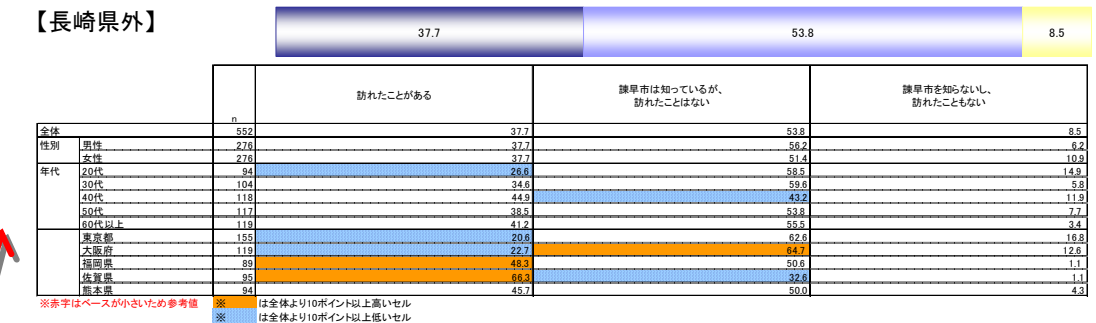
諫早市の訪問経験については、県内では約 83%が訪問したことがあるが、県外については、長崎県を訪れた際に諫早市を訪れるのは約 38%に留まっており、特に東京、大阪からの訪問が少ない。

また、県外においては8.5%が「諫早市を知らない」と回答しており、訪問の前提条件である知名度向上が諫早市の課題の1つとして挙げられる。

【長崎県内】

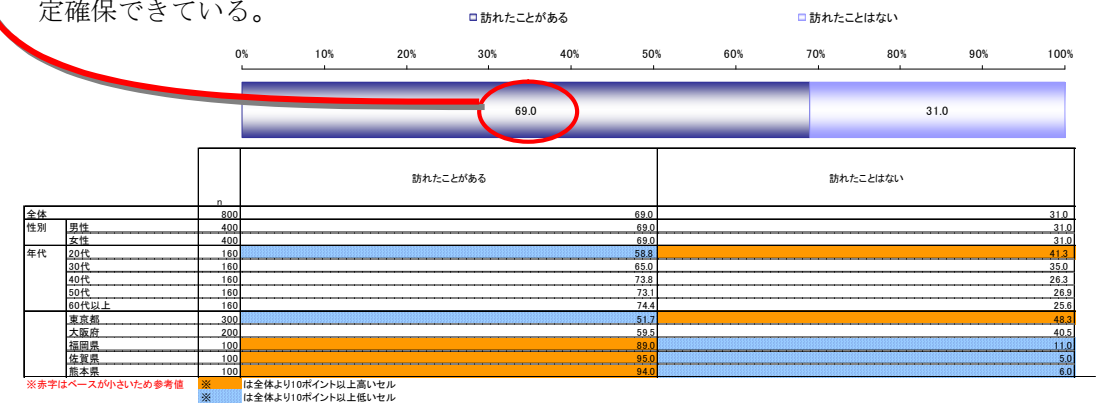


【長崎県外】



【長崎県外】長崎県の訪問経験

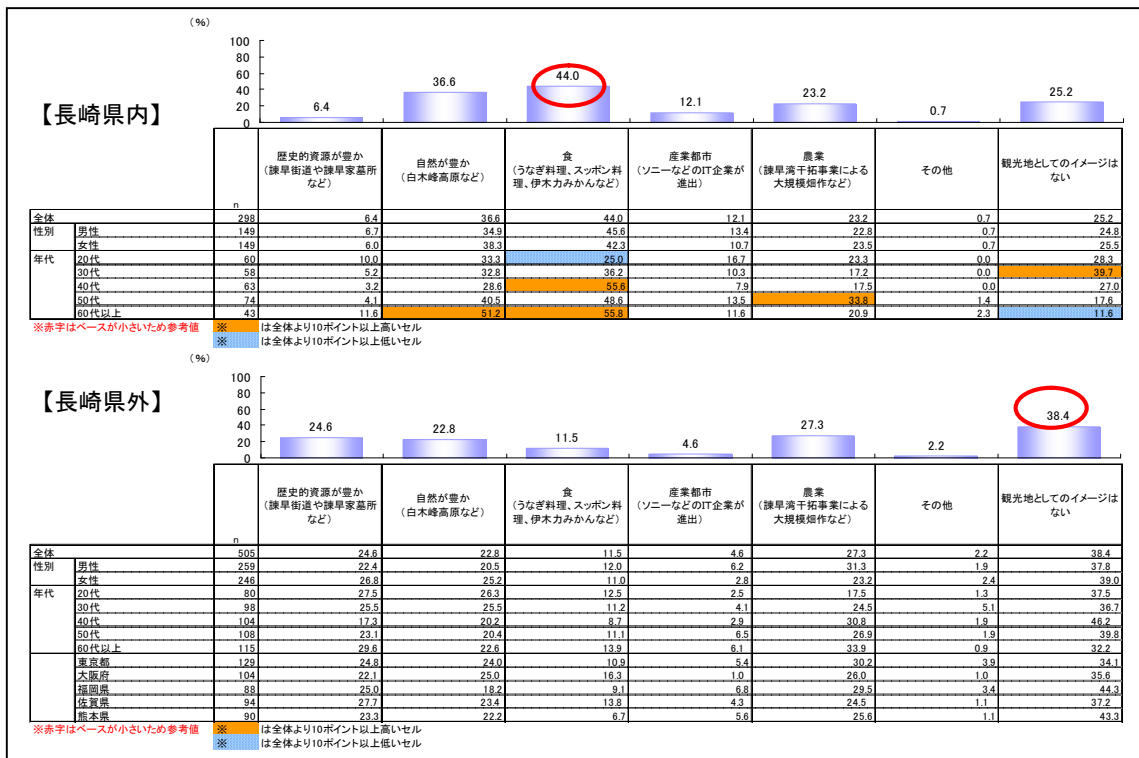
県外では、69%が長崎県を訪れたことがあり、県全体としては知名度、訪問実績は一定確保できている。



「諫早市のイメージ」

諫早市を知っている人の諫早市に対するイメージについて聞いたところ、県内においては「食（うなぎ、スッポンなど）」、県外においては「観光地としてのイメージはない」が最多であった。このことは、県内においては日常の情報の中で、食や菜の花などの開花情報などに触れることで、意識醸成できていることに依るところが大きいと思われる。

また、「諫早湾干拓地」が県内外ともほぼ同程度の回答を得ており、干拓事業について全国規模で報道されたことが要因であると推測されるが、その他の観光に結びつく様な項目のイメージが低いことが今後の課題である。

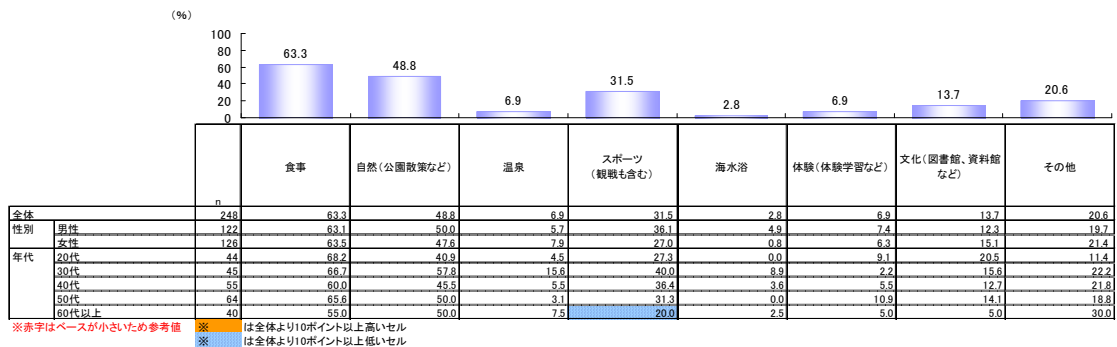


「諫早市の訪問目的」

長崎県民の多くは食事や自然を楽しむために諫早市を訪れていることがわかる。

一方で、体験については6.9%と非常に低いことから、諫早湾干拓地を中心とした農業体験等の取り組みによる交流人口の拡大が期待される。

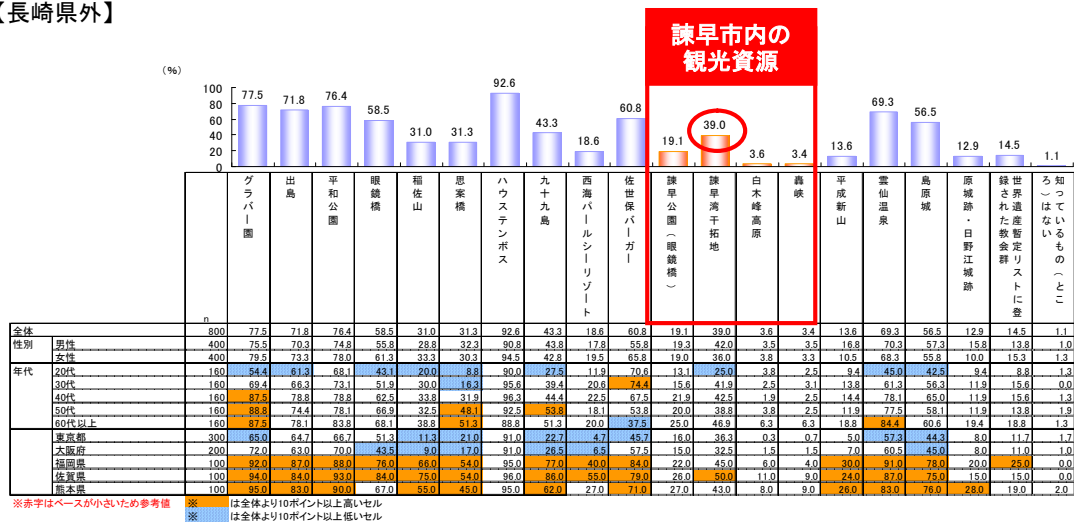
【長崎県内】



「諫早市の観光資源の知名度」

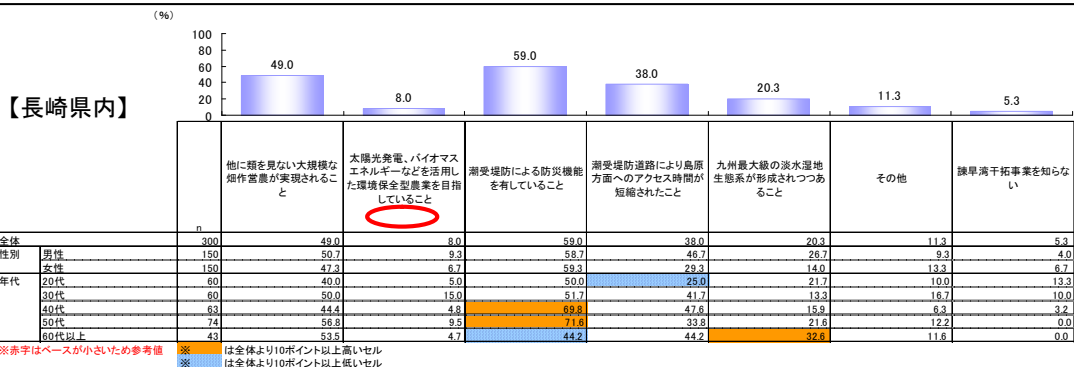
県外における、諫早市内の主な観光資源の知名度について検証するため、県内の他の市町における主要な観光資源と諫早市内の主な観光資源を併記し、知っているものを全て選んでもらった。その結果、諫早市内の主な観光資源は他の地域に比べ、相対的に知名度が低いことがわかる。しかしながら、その中において唯一「諫早湾干拓地」については39%であり、長崎市の「思案橋」、佐世保市の「九十九島」とほぼ同程度の知名度があった。このことから、諫早市の知名度アップ、諫早市にある観光資源の知名度アップにおいては、「諫早湾干拓地」をキーワードとして打ち出すことが有効であると思われる。また、近隣市である雲仙市の「雲仙温泉」(69.3%)、島原市の「島原城」(56.5%)の知名度は高く、それらとの連携も有効であると思われる。

【長崎県外】



「諫早湾干拓事業の認知度」

諫早湾干拓事業については、その主な目的については認知されている。しかしながら、諫早湾干拓地で営まれる農業の大きなテーマである環境保全型農業への取り組みについては、ほとんど知られていない。

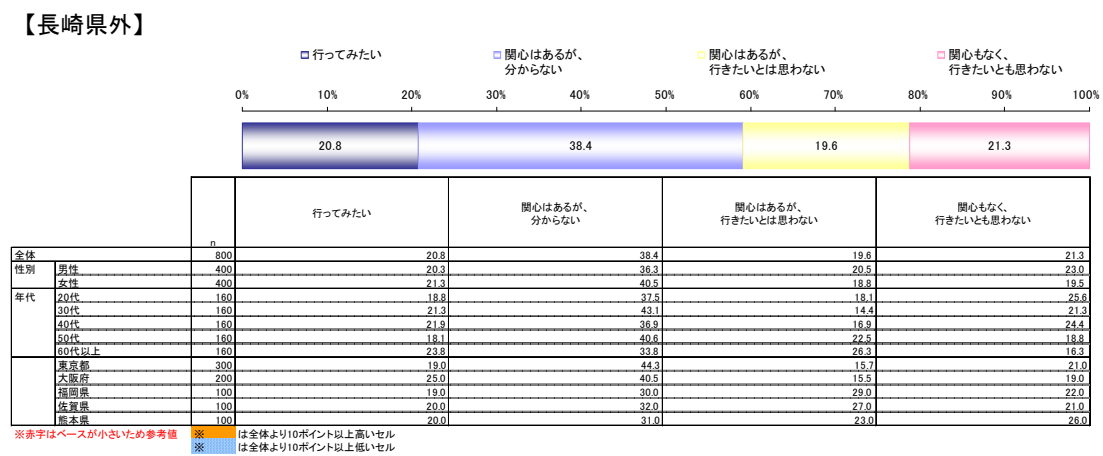
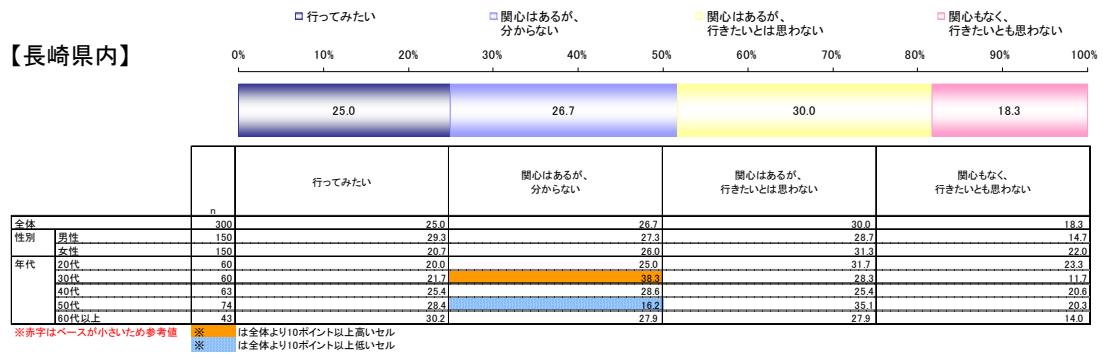


「諫早湾干拓地の訪問意向」

諫早湾干拓地への訪問意向について、県内 25.0%、県外 20.8%に留まっている。

また、関心はあるものの明確に訪問意向を持っていない潜在的訪問客が、県内 56.7%、県外 58.0%と非常に多くなっている。

このことから、干拓地の魅力向上や PR に積極的に関わり、潜在的訪問客の掘り起こしと取り込みを図る必要がある。



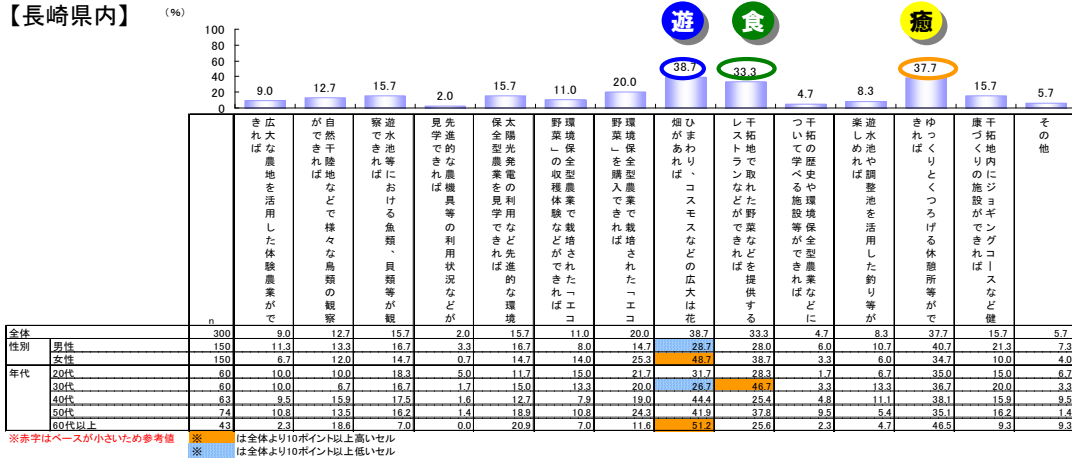
「諫早湾干拓地での実施希望事業」

諫早湾干拓地における実施希望事業については、県内、県外とも同様の傾向であった。

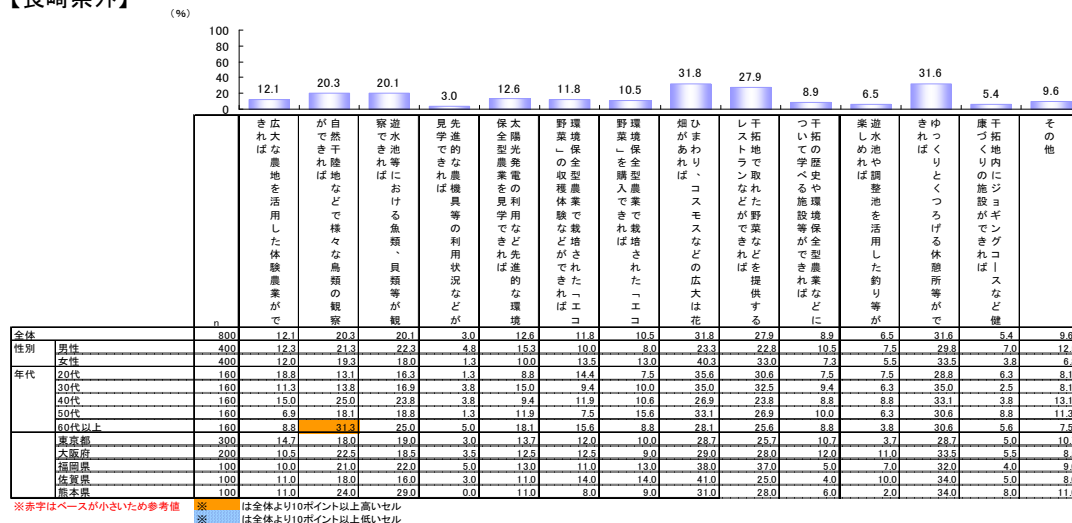
「ひまわり、コスモスなどの広大な花畑があれば」が県内 38.7%、県外 31.8%で最多、次いで「ゆっくりとくつろげる休憩所等ができれば」が県内 37.7%、県外 31.6%、

「干拓地で取れた野菜などを提供するレストランなどができれば」が県内 33.3%、県外 27.9%の順となっている。また、県内において年代において傾向の違いがあり、「ひまわり、コスモスなどの広大な花畑があれば」は 60 代以上が非常に多く、「干拓地で取れた野菜などを提供するレストランなどができれば」は 30 代が多くなっている。

【長崎県内】



【長崎県外】

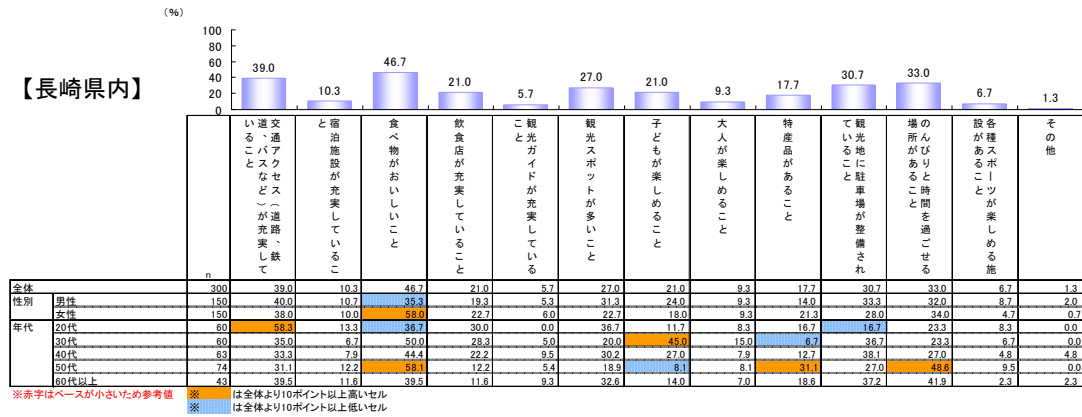


「諫早市訪問の条件」

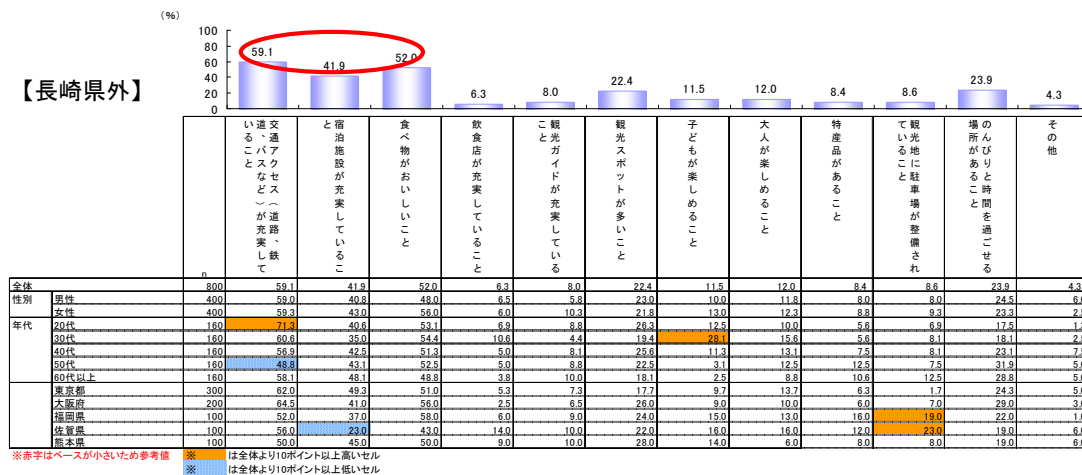
県内においては、「食べ物がおいしいこと」(46.7%) が最多、次いで「交通アクセスが充実していること」(39.0%)、「のんびりと時間を過ごせる場所があること」(33.0%)、「観光地に駐車場が整備されていること」(30.7%) の順となっている。

県外においては、「交通アクセスが充実していること」(59.1%) が最多、次いで「食べ物がおいしいこと」(52.0%)、「宿泊施設が充実していること」(41.9%) となっており、県内外でその傾向には違いがある。

【長崎県内】



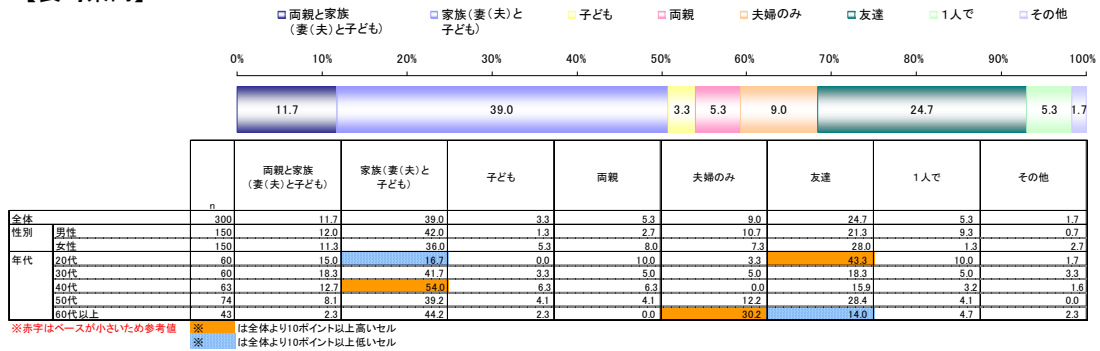
【長崎県外】



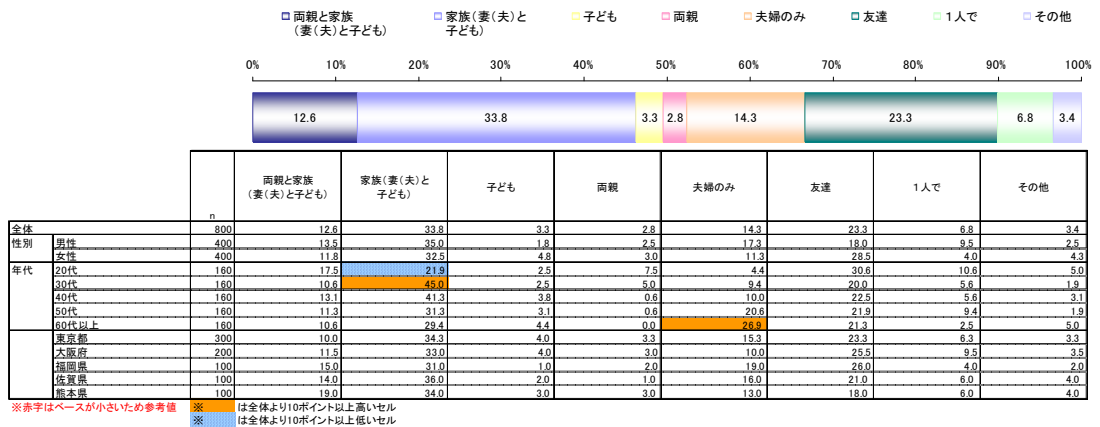
「旅行・レジャーの同行者」

旅行やレジャーへは、家族や友人と出かける場合は多いことが分かる。
また、60代以上になると夫婦のみでの外出が多くなっている。

【長崎県内】



【長崎県外】

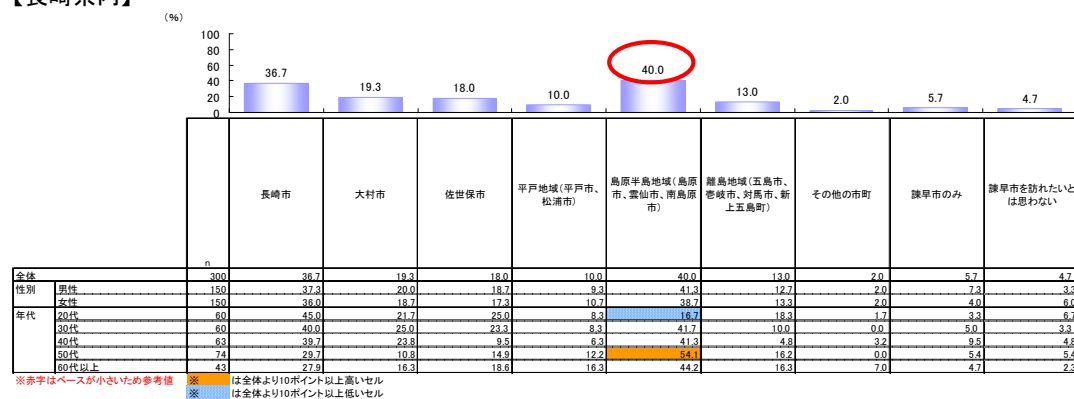


「他市町への訪問意向」

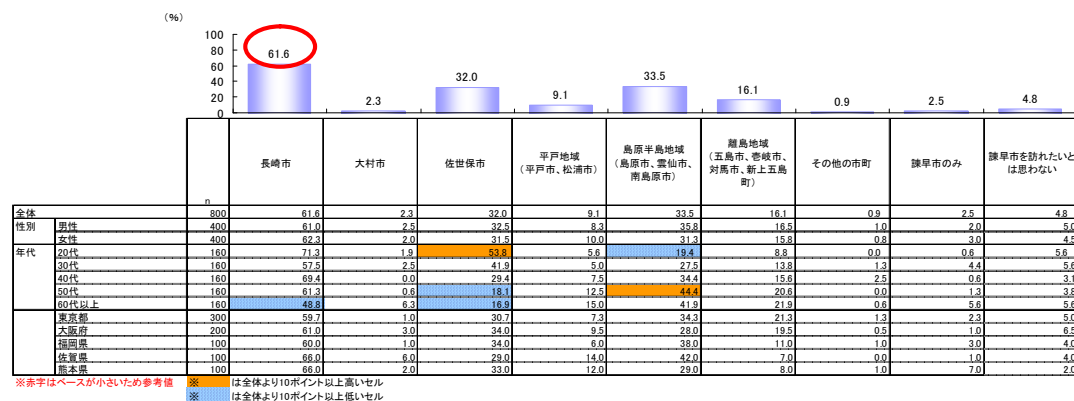
諫早市と併せて訪問したい市町については、県内は「島原半島」(40.0%)が最多、次いで「長崎市」(36.7%)となっている。特に50代の島原半島訪問希望が多くなっており、温泉を目的とした訪問が中心であると思われる。

一方、県外においては、「長崎市」(61.6%)と最多、次いで「島原半島」(33.5%)、「佐世保市」(32.0%)となっている。このことは、長崎市をはじめ、観光地としての知名度、雲仙温泉(雲仙市)、ハウステンボス(佐世保市)によるものと思われる。

【長崎県内】



【長崎県外】



アンケート項目

【長崎県内用】

Q1 あなたの「観光」や「レジャー」の主な目的を1つお選びください。
【必須】

- ☐ 1. 食
- ☐ 2. 癒し
- ☐ 3. 健康
- ☐ 4. 温泉
- ☐ 5. 体験(体験学習など)
- ☐ 6. 交流
- ☐ 7. その他 (回答必須)
- ☐ 8. 「観光」や「レジャー」はしない

Q2 ■Q1で「観光やレジャーはしない」とお答えの方以外にお伺いします■
【必須】 あなたは長崎県諫早市を知っていますか。知っている方はこれまでに、観光、レジャーなどで諫早市を訪れたことがありますか。

- ☐ 1. 訪れたことがある
- ☐ 2. 諫早市は知っているが、訪れたことはない
- ☐ 3. 諫早市を知らないし、訪れたこともない
- ☐ 4. 諫早市に住んでいる

Q3 ■Q2で「訪れたことがある」とお答えの方にお伺いします■
【必須】 あなたが諫早市を訪れた目的は何ですか。
(いくつでも)

- ☐ 1. 食事
- ☐ 2. 自然(公園散策など)
- ☐ 3. 温泉
- ☐ 4. スポーツ(観戦も含む)
- ☐ 5. 海水浴
- ☐ 6. 体験(体験学習など)
- ☐ 7. 文化(図書館、資料館など)
- ☐ 8. その他 (回答必須)

Q4 ■Q2で「諫早市を知らないし、訪れたこともない」とお答えの方以外にお伺いします■
【必須】 観光地としての諫早市のイメージについて、あなたの考えに該当する主なものを2つまでお選びください。
 (2つまで)

- ☐ 1. 歴史的資源が豊か(諫早街道や諫早家墓所など)
- ☐ 2. 自然が豊か(白木峰高原など)
- ☐ 3. 食(うなぎ料理、スッポン料理、伊木力みかんなど)
- ☐ 4. 産業都市(ソニーなどのIT企業が進出)
- ☐ 5. 農業(諫早湾干拓事業による大規模畑作など)
- ☐ 6. その他 (回答必須)
- ☐ 7. 観光地としてのイメージはない(排他)

Q5 あなたは諫早湾干拓事業を知っていますか。
【必須】 知っている方は、あなたが諫早湾干拓事業について知っていることを全てお選びください。
 (いくつでも)

- ☐ 1. 他に類を見ない大規模な畑作営農が実現されること
- ☐ 2. 太陽光発電、バイオマスエネルギーなどを活用した環境保全型農業を目指していること
- ☐ 3. 潮受堤防による防災機能を有していること
- ☐ 4. 潮受堤防道路により島原方面へのアクセス時間が短縮されたこと
- ☐ 5. 九州最大級の淡水湿地生態系が形成されつつあること
- ☐ 6. その他 (回答必須)
- ☐ 7. 諫早湾干拓事業を知らない(排他)

Q6 あなたは、諫早湾干拓地へ行ってみたいと思いますか。
【必須】

- ☐ 1. 行ってみたい
- ☐ 2. 関心はあるが、分からない
- ☐ 3. 関心はあるが、行きたいとは思わない
- ☐ 4. 関心もなく、行きたいとも思わない

Q7 そこで、どのような事業が実施されれば、当該干拓地を訪れたいと思いますか。
【必須】 以下の中から3つまでお選びください。
 (3つまで)

- ☐ 1. 広大な農地を活用した体験農業ができれば
- ☐ 2. 自然干陸地などで様々な鳥類の観察ができれば
- ☐ 3. 遊水池等における魚類、貝類等が観察できれば
- ☐ 4. 先進的な農機具等の利用状況などが見学できれば
- ☐ 5. 太陽光発電の利用など先進的な環境保全型農業を見学できれば
- ☐ 6. 環境保全型農業で栽培された「エコ野菜」の収穫体験などができれば
- ☐ 7. 環境保全型農業で栽培された「エコ野菜」を購入できれば
- ☐ 8. ひまわり、コスモスなどの広大な花畑があれば
- ☐ 9. 干拓地で取れた野菜などを提供するレストランなどができれば
- ☐ 10. 干拓の歴史や環境保全型農業などについて学べる施設等ができれば
- ☐ 11. 遊水池や調整池を活用した釣り等が楽しめれば
- ☐ 12. ゆっくりとくつろげる休憩所等ができれば
- ☐ 13. 干拓地内にジョギングコースなど健康づくりの施設ができれば
- ☐ 14. その他 (回答必須)

Q8 あなたはどのような条件があれば諫早市(諫早湾干拓地を含む)を観光、レジャーで訪れたいと思いますか。
【必須】 以下の 中から3つまでお 選びください。
(3つまで)

- ☐ 1. 交通アクセス(道路、鉄道、バスなど)が充実していること
- ☐ 2. 宿泊施設が充実していること
- ☐ 3. 食べ物がおいしいこと
- ☐ 4. 飲食店が充実していること
- ☐ 5. 観光ガイドが充実していること
- ☐ 6. 観光スポットが多いこと
- ☐ 7. 子どもが楽しめること
- ☐ 8. 大人が楽しめること
- ☐ 9. 特産品があること
- ☐ 10. 観光地に駐車場が整備されていること
- ☐ 11. のんびりと時間を過ごせる場所があること
- ☐ 12. 各種スポーツが楽しめる施設があること
- ☐ 13. その他 **(回答必須)**

Q9 あなたが諫早市(諫早湾干拓地を含む)を観光、レジャーで訪れる場合、誰と行きたいですか。
【必須】

- ☐ 1. 両親と家族(妻(夫)と子ども)
- ☐ 2. 家族(妻(夫)と子ども)
- ☐ 3. 子ども
- ☐ 4. 両親
- ☐ 5. 夫婦のみ
- ☐ 6. 友達
- ☐ 7. 1人で
- ☐ 8. その他 **(回答必須)**

Q10 あなたが諫早市を訪れる場合、他に長崎県内のどの地域を訪れたいですか。
【必須】 主な地域を2つまでお 選びください。
(2つまで)

- ☐ 1. 長崎市
- ☐ 2. 太田市
- ☐ 3. 佐世保市
- ☐ 4. 平戸地域(平戸市、松浦市)
- ☐ 5. 島原半島地域(島原市、雲仙市、南島原市)
- ☐ 6. 離島地域(五島市、壱岐市、対馬市、新上五島町)
- ☐ 7. その他の市町
- ☐ 8. 諫早市のみ **(排他)**
- ☐ 9. 諫早市を訪れたいとは思わない **(排他)**

【長崎県外(東京都、大阪府、福岡県、佐賀県、熊本県)用】

Q1 あなたの「観光」や「レジャー」の主な目的を1つお選びください。

【必須】

- ☐ 1. 食
- ☐ 2. 癒し
- ☐ 3. 健康
- ☐ 4. 温泉
- ☐ 5. 体験(体験学習など)
- ☐ 6. 交流
- ☐ 7. その他 (回答必須)
- ☐ 8. 「観光」や「レジャー」はしない

Q2 ■Q1で「観光やレジャーはしない」とお答えの方以外にお伺いします■

【必須】 これまでに、観光、レジャーなどで長崎県を訪れたことがありますか。

- ☐ 1. 訪れたことがある
- ☐ 2. 訪れたことはない

Q3 ■Q2で「訪れたことがある」とお答えの方にお伺いします■

【必須】 あなたは長崎県諫早市を知っていますか。

知っている方はこれまでに、観光、レジャーなどで長崎県諫早市を訪れたことがありますか。

- ☐ 1. 訪れたことがある
- ☐ 2. 諫早市は知っているが、訪れたことはない
- ☐ 3. 諫早市を知らないし、訪れたこともない

Q4 あなたが長崎県内で知っているもの(ところ)を全てお選びください。

【必須】 (いくつでも)

- | | |
|---|--|
| ☐ 1. グラバー園 | ☐ 11. 諫早公園(眼鏡橋) |
| ☐ 2. 出島 | ☐ 12. 諫早湾干拓地 |
| ☐ 3. 平和公園 | ☐ 13. 白木峰高原 |
| ☐ 4. 眼鏡橋 | ☐ 14. 轟峡 |
| ☐ 5. 稲佐山 | ☐ 15. 平成新山 |
| ☐ 6. 思案橋 | ☐ 16. 雲仙温泉 |
| ☐ 7. ハウスデンボス | ☐ 17. 島原城 |
| ☐ 8. 九十九島 | ☐ 18. 原城跡・日野江城跡 |
| ☐ 9. 西海パールシーリゾート | ☐ 19. 世界遺産暫定リストに登録された教会群 |
| ☐ 10. 佐世保バーガー | ☐ 20. 知っているもの(ところ)はない(排他) |

Q5 ■Q2で「諫早市を知らないし、訪れたこともない」とお答えの方以外にお伺いします■
【必須】 観光地としての諫早市のイメージについて、あなたの考えに該当する主なものを2つまでお選びください。
 (2つまで)

- ☐ 1. 歴史的資源が豊か(諫早街道や諫早家墓所など)
- ☐ 2. 自然が豊か(白木峰高原など)
- ☐ 3. 食(うなぎ料理、スッポン料理、伊木力みかんなど)
- ☐ 4. 産業都市(ソニーなどのIT企業が進出)
- ☐ 5. 農業(諫早湾干拓事業による大規模畑作など)
- ☐ 6. その他 (回答必須)
- ☐ 7. 観光地としてのイメージはない(排他)

Q6 あなたは、諫早湾干拓地へ行ってみたいと思いますか。
【必須】

- ☐ 1. 行ってみたい
- ☐ 2. 関心はあるが、分からない
- ☐ 3. 関心はあるが、行きたいとは思わない
- ☐ 4. 関心もなく、行きたいとも思わない

Q7 そこで、どのような事業が実施されれば、当該干拓地を訪れたいと思いますか。
【必須】 以下の中から3つまでお選びください。
 (3つまで)

- ☐ 1. 広大な農地を活用した体験農業ができれば
- ☐ 2. 自然干陸地などで様々な鳥類の観察ができれば
- ☐ 3. 遊水池等における魚類、貝類等が観察できれば
- ☐ 4. 先進的な農機具等の利用状況などが見学できれば
- ☐ 5. 太陽光発電の利用など先進的な環境保全型農業を見学できれば
- ☐ 6. 環境保全型農業で栽培された「エコ野菜」の収穫体験などができれば
- ☐ 7. 環境保全型農業で栽培された「エコ野菜」を購入できれば
- ☐ 8. ひまわり、コスモスなどの広大は花畑があれば
- ☐ 9. 干拓地で取れた野菜などを提供するレストランなどができれば
- ☐ 10. 干拓の歴史や環境保全型農業などについて学べる施設等ができれば
- ☐ 11. 遊水池や調整池を活用した釣り等が楽しめれば
- ☐ 12. ゆっくりとくつろげる休憩所等ができれば
- ☐ 13. 干拓地内にジョギングコースなど健康づくりの施設ができれば
- ☐ 14. その他 (回答必須)

Q8 あなたはどのような条件があれば諫早市(諫早湾干拓地を含む)を観光、レジャーで訪れたいと思いますか。
【必須】 以下のの中から3つまでお選びください。
(3つまで)

- ☐ 1. 交通アクセス(道路、鉄道、バスなど)が充実していること
- ☐ 2. 宿泊施設が充実していること
- ☐ 3. 食べ物がおいしいこと
- ☐ 4. 飲食店が充実していること
- ☐ 5. 観光ガイドが充実していること
- ☐ 6. 観光スポットが多いこと
- ☐ 7. 子どもが楽しめること
- ☐ 8. 大人が楽しめること
- ☐ 9. 特産品があること
- ☐ 10. 観光地に駐車場が整備されていること
- ☐ 11. のんびりと時間を過ごせる場所があること
- ☐ 12. その他 (回答必須)

Q9 あなたが諫早市(諫早湾干拓地を含む)を観光、レジャーで訪れる場合、誰と行きたいですか。
【必須】

- ☐ 1. 両親と家族(妻(夫)と子ども)
- ☐ 2. 家族(妻(夫)と子ども)
- ☐ 3. 子ども
- ☐ 4. 両親
- ☐ 5. 夫婦のみ
- ☐ 6. 友達
- ☐ 7. 1人で
- ☐ 8. その他 (回答必須)

Q10 あなたが諫早市を訪れる場合、他に長崎県内のどの地域を訪れたいですか。
【必須】 主な地域を2つまでお選びください。
(2つまで)

- ☐ 1. 長崎市
- ☐ 2. 大村市
- ☐ 3. 佐世保市
- ☐ 4. 平戸地域(平戸市、松浦市)
- ☐ 5. 島原半島地域(島原市、雲仙市、南島原市)
- ☐ 6. 離島地域(五島市、壱岐市、対馬市、新上五島町)
- ☐ 7. その他の市町
- ☐ 8. 諫早市のみ(排他)
- ☐ 9. 諫早市を訪れたいとは思わない(排他)

8) モニタリングツアーの実施

マーケットサウンディングと併せ、実際に諫早湾干拓地や周辺地域に足を運び、現地を見て感じた地域資源としての干拓地の価値や活用可能性、整備が必要なものなど、観光客の視点からの様々な意見を聴取し、実効性の高い融合スキームの構築を図っていく。

モニタリングツアーより

諫早湾干拓地や周辺地域は、観光資源としてのポテンシャルを持っている！

今後は活用方策や人を呼び込むしくみづくりが重要

地域に根ざした語り部により感動を与えることが出来る

モニタリングツアー概要

実施日 : 平成 20 年 3 月 7 日 (金) 9:00~16:30

実施場所 : 諫早湾干拓地及び周辺観光施設等

参加者 : 21 名 (一般 14 名、関係者 7 名)

■モニタリングツアー行程

①白木峰高原

10:10~10:30



諫早湾を一望できる五家原岳中腹にあり、諫早湾干拓地の全景を眺望でき、4月頃には約 10 万本の菜の花を鑑賞することも出来る。

②潮受け堤防道路

11:00~11:10



潮受け堤防上に整備された農道で、全長約 7 Km、諫早市高来町と雲仙市吾妻町を短絡し、従来よりも 30 分の時間短縮が可能となった。

③雲仙市直売所

11:10～11:30



潮受け堤防道路の雲仙市側の付け根部分に雲仙市により設置され、雲仙市内の13店舗が入居している観光直売所。現在地は埋め立ての関係でH20年3月末までの期間限定での設置となっているが、来店者、売上げとも順調であり、存続の要望が、利用者・出店者からは挙がっている。

④ 農村レストラン ゆたっと（昼食）

12:00～13:00



地元農家による農事組合法人スマイルライフが運営する、地元産野菜をふんだんに使った田舎風イタリアン&創作郷土料理の店。

⑤干拓の里・干拓資料館

13:20～13:50



干拓資料館は、昭和62年、国のモデル木造施設建設事業で建てられた。干拓地の広がりや年代模型などによる展観や干拓地ならではのツキミズに使った渦掘り道具、伝統性が強い漁労用具を提示している。

⑥中央干拓地

14:00～14:50



地形的に平坦な農地が少ない長崎県において、平坦で大規模な農地を造成します。また、調整池を水源とすることにより安定した農業用水が確保できます。



■モニタリングツアーの開催状況



【白木峰高原】

長崎県農林部諫早湾干拓室 福田参事より、諫早湾干拓地の全景を見ながら、干拓事業の概要、効果等について説明。



【雲仙市直売所】

車窓から堤防中央部に建設中の展望所、歩道橋等や水辺で羽を休める鴨を車窓から観察しつつ、諫早市高来町から雲仙市吾妻町へ潮受け堤防路（7km）の時間短縮効果（40分→10分）を体感しながら走行。

直売所においては、雲仙市内の13店舗の出品する様々な特産品を購入。



レストランから徒歩
3分程度の直売所

【農村レストラン ゆたっと】

レストランのある諫早市森山町内の農家が生産した野菜を中心に使った田舎風イタリアン&創作郷土料理のビュッフェ形式レストラン。地元産品を地元で提供する場について体験して頂くとともに、周辺の統一の取れた景観形成によるまちづくりも実感してもらった。



【諫早ゆうゆうランド干拓の里 干拓資料館】

諫早市学芸員の川内氏より干拓地が出来るしくみから諫早における干拓の歴史、地域住民の暮らしの歴史など地域に根ざした者にしか語れない貴重な説明を受けた後、農機具や漁労用具を見学した。

素晴らしい説明に、参加者は干拓について再認識するとともに、干拓地周辺における歴史をも実感できた。



【中央干拓地① 試験ほ場】

長崎県農林部総合農林試験場干拓科小林科長から、諫早湾干拓地における営農形態、土質の特徴、試験ほ場における研究結果、今後の営農計画などの説明を受けた。

また、試験ほ場で試験栽培中のタマネギについて、試験方法などについての説明や実際の栽培状況を見学した。（イチゴの試食あり）



【中央干拓地② 内部堤防・前面】

長崎県農林部農村整備課 野中課長補佐より、今後、国・県により計画されている、遊歩道、トイレ、駐車場、木道、展望所などの整備計画や自然干陸地の保護、活用方法について説明を受けた。



【意見交換】

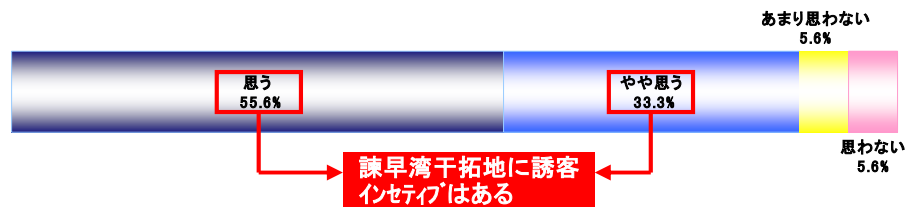
モニタリングツアーの全行程が終了し、参加者によるアンケート票記入と意見交換を実施。

整備計画への質問や意見等が出された。(詳細は後段)

Q 再度、諫早湾干拓地を訪れたいと思いますか？

諫早湾干拓地への訪問意向については、「思う」(55.5%)が最多、次いで「やや思う」(33.3%)となっており、訪問意向は高くなっている。

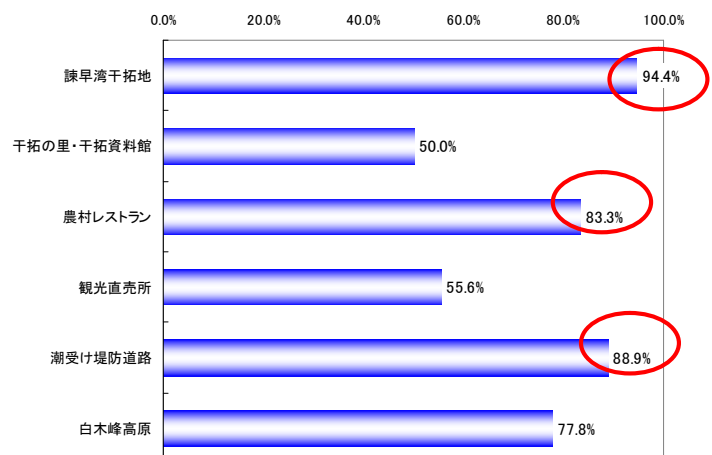
しかしながら、現在はまだ各種施設整備が完成しておらず、完成後の姿を見てみたいとの理由が多いと推測されるため、今後は、諫早湾干拓地を訪れた方々のリピーター化を図るようなしくみを検討する必要もあると思われる。



Q 今回のコースの中で、観光商品の材料になると思う場所は？(複数選択可)

観光資源としては各施設とも有効であると思われる。

特に「諫早湾干拓地」(94.4%)、「潮受け堤防道路」(88.9%)が非常に高くなっており、次いで高い比率になっている「農村レストラン」(83.3%)との組み合わせにより、ニーズにあった観光コースの造成が可能となる。



■モニタリングツアー参加者の自由意見等

項目	内容
施設・整備	・街灯設置（小型太陽光発電、風車） ・直売所、展望レストランの充実が必要 ・自然干陸地の展望所は、高くして全景が眺望出来るようにして欲しい ・農業や環境が体験、学習出来る施設を作って欲しい ・トイレの整備が不十分ではないか ・お土産品の購入場所が少ない ・大型の遊戯施設が欲しい ・各施設ともバリアフリーになっていない
活用策	・作物マップの作製 ・潮受け堤防道路からの眺望は楽しめる ・干拓の里での説明が非常に良かった ・干拓地に関わる人の“情熱”のある話（説明）に感動した ・観光テーマとして「学ぶ」を中心に考えて欲しい ・説明により諫早湾干拓事業について再認識できた ・これまでの諫早湾干拓事業への悪いイメージが払拭された ・修学旅行、社会科見学に活用して欲しい ・夏場などの農作物があまり取れない時期の活用方法について検討が必要 ・空港が近いのだからもっとPRして知ってもらう必要がある ・干拓地単体での観光としての活用は難しい ・干拓技術の先進事例として土木の関係者ツアーなどは良いのではないか ・小学生などの記念植樹ゾーン、並木の設置
観光ルート	・水害の証拠としての“眼鏡橋”の追加 ・島原方面の観光施設などもコースに加えて欲しい
その他	・人の出入りが多くなる事によるゴミ対策に対策やPRが必要 ・干拓地内の道路利用において、観光客と農業者間で問題が生じないか？ ・現状の干拓地では、観光での利用は難しいのではないか ・広大な土地があることで、安易に様々な施設を設置して欲しくない ・干拓地は一度見れば、再度訪れようとは思わないので、訪れたくなくような施設などが必要

2. 3. 2 近隣市町との連携可能性検討

1) 近隣市町における観光資源の把握

諫早湾干拓地がある諫早市の周辺市町（雲仙市、大村市など）においても数多くの観光資源が存在しており、諫早湾干拓地を中心とした面的観光メニューを検討するに当たってはそれらの把握と活用が重要となる。

■雲仙市の主な観光スポット

市町名	分野	スポット	概要
雲仙市	施設	ベガススライディングパーク	乗馬体験及び野外騎乗ができる。
雲仙市	施設	雲仙温泉	早くからヨーロッパにも名を知られた国際観光地。昭和9年には、日本で最初の国立公園。
雲仙市	施設	小浜温泉	雄大な雲仙を背にひかえ、紺碧の橋湾に臨む小浜温泉。名山を間近に眺めつつ海に遊び、ゆったりと温泉でくつろぐという、快適な海浜リゾート。
雲仙市	施設	雲仙お山の情報館	雲仙火山の地質構造や温泉地の泉質を壁画面などで分かりやすく解説しており、雲仙に生息する野鳥や植物などをパソコンで検索することもできる。
雲仙市	施設	みずほすこやかランド	施設には、多目的グラウンドやテニスコートが整備され研修施設も完備されている。
雲仙市	施設	休暇村雲仙	島原半島最大の湖に、レストハウスやテニスコート、プールなどレクリエーション施設が充実しています。夏はキャンプ場として人気が高く、多くの人に利用されている。
雲仙市	施設	遊学の館	国見町総合運動公園内にある宿泊研修施設で、泊まって学ぶ、スポーツを楽しむ、気軽にくつろぐなど多彩な用途に応じる施設。
雲仙市	施設	雲仙スパハウス・ビードロ美術館	リニューアルされた雲仙スパハウスに、世界の伝統的工芸品を集めた「ビードロ美術館」を併設。ガラス作りも体験できる。
雲仙市	施設	ふれあいの村	運動広場・憩いの家があり、運動広場はソフトボールコート2面、憩いの家は陶芸室、本格的茶室がある。
雲仙市	施設	ふるさとふれあい館	雲仙グリーンロード沿いにあり、吾妻町の農家が丹精込めて育てた季節の野菜や果物が所狭しと並んでいる。農協女性部の皆さんが昔ながらの手法で作った手作りこんにやくや、まんじゅうは、懐かしいお袋の味として人気がある。
雲仙市	施設	食材館「ちぢわもん」	“千々石産のもの”を意味するこの直売所では、千々石で収穫した農産物のほか、自家製の釜揚げ豆腐やコロッケも販売している。
雲仙市	施設	雲仙駄菓子屋さん博物館	店頭には昔懐かしいくじ引きの駄菓子やメンコ、ブリキのおもちゃなどが並んでいる。2階は非販売のおもちゃの博物館になっており、セルロイドのお面やステッカーなど、まるでタイムスリップしたようなノスタルジックな世界が広がっている。
雲仙市	自然	仁田峠・雲仙ロープウェイ	春には峠にツツジが咲誇り、夏の緑、秋の紅葉、冬の霧水と四季を通じて雲仙観光のメッカとなっている。仁田峠から妙見山頂へロープウェイが運行し、仁田、妙見の展望ラインをなしている。
雲仙市	自然	雲仙の植物と自然	池の原ミヤマキリシマ群落・地獄地帯シロドウダン群落・原生沼沼野植物群・普賢岳紅葉樹林・霧水
雲仙市	自然	百花台公園	サッカー、テニスなど様々なスポーツが楽しめ、展望台からは平成新山、有明海が一望でき、春のつつじ、あじさい、秋の紅葉など四季を通じて目を楽しませてくれる。
雲仙市	自然	愛野展望台	標高100mの断崖から望む雲仙岳や橋湾のすばらしい景観は風光明媚で優れた自然環境に恵まれている。
雲仙市	自然	橋(神社)公園	千々石町のほぼ中央に位置し、古くから県内でも有数の桜の名所として知られている。公園敷地内にある河川公園は、自然石を使って整備した親水公園で、家族連れや学校の遠足などにも利用されている。
雲仙市	自然	田代原キャンプ場	九千部岳と吾妻岳の箱庭のような高原の西端にある自然環境に配慮したエコロジーキャンプ場。
雲仙市	自然	みずほの森公園	溢れる水と木漏れ日が美しいみずほの森公園。広い公園には、クラフトハウスのある「クラフトの森」をはじめ「芝生広場」やアスレックが楽しめる「冒険の森」等、緑いっぱいの自然空間がある。
雲仙市	自然	白雲の池キャンプ場	白雲の池周辺にあるキャンプ場は、自然に囲まれ、野鳥や昆虫も豊富で、湖畔からは平成新山も遠望できる。夏は涼しく、避暑には最高の場所である。
雲仙市	自然	棚田展望台	日本棚田百選に選定された石積の美しい棚田が望観できる。
雲仙市	自然	千々石海水浴場	日本自然100選、白砂青松100選に選定された海岸の海水浴場。
雲仙市	自然	国崎半島自然公園	県立自然公園に指定されており、海水浴や磯釣りが同時に楽しまれ、またキャンプ場も完備されている。
雲仙市	自然	猿楽山公園(パラグライダー)	年中パラグライダーが楽しめるテイクオフポイントとして主に利用されている。
雲仙市	自然	とけん山公園	眼下に温泉街の全景と橋湾を一望に収め、春は山をおおって桜が咲誇り、桜の名所として名高い展望地。頂上には生目八幡の社がある。
雲仙市	自然	牧場の里あづま	吾妻岳の中腹、標高400mに広がる吾妻岳牧野を利用した休養地。万里の長城を模した全庁480mの遊歩道からは有明海や橋湾、遠く雲仙の山並みなど、島原半島の雄大な自然が一望できる。
雲仙市	自然	農村公園	瑞穂町に流れる西郷川のほとりに整備された、溪流と親しむ公園。川の流れを使った水車小屋や親水池などがあり、瑞穂の美しい水を実感することができる。
雲仙市	自然	緑のトンネル	昭和2年から昭和13年までは小浜～愛野間を結ぶ鉄道として利用されていた温泉鉄道跡で、春から夏の緑美しい頃にできる自然の自然のトンネル。
雲仙市	自然	小浜マリナーパーク	海岸に面して野外ステージやグラウンドなどが整備され、そばには青空物産広場もある憩いのエリア。橋湾に沈む夕日を見るのに絶好のポイントである。
雲仙市	自然	諏訪の池キャンプ場	雲仙国立公園内にあり、広い芝生、釣りやボート遊びができる湖のほか、レクリエーション施設も充実。
雲仙市	歴史	神代小路歴史文化公園・鍋島邸	佐賀藩神代領「鍋島氏」の陣屋跡。正面からは元禄時代に建てられた長屋門とその前に切石積みのお堀が両側に約30メートルにわたって連なっている。鍋島陣屋跡を含む町並みは、武家屋敷の面影を残している。
雲仙市	歴史	淡島神社	神代西里地区にあり、縁結び、安産、子育てに霊験があるとされる。3つの「ミニ鳥居」をくぐることで、健康な子どもが生まれるとされている。
雲仙市	歴史	首塚	原城落城の後幕府は住徒の首を3分して長崎の西坂と天草の富岡とここ愛野町の愛津の3ヶ所に埋めた塚と言われる。現在小丘の塚が残っている。
雲仙市	歴史	小浜町歴史資料館	築およそ160年の本多湯太夫邸跡を歴史的遺産として保存しながら本多湯太夫の歴史や功績を紹介している「湯太夫展示館」や小浜町の歴史、交通、温泉の特色などを見ることが出来る「歴史資料展示館」がある。
雲仙市	歴史	切支丹墓碑	小浜町に7基の墓碑があり、6基が県文化財で、墓型は蒲鉾型、庵型、台付き蒲鉾型と典型的なものが現存し、永禄5年(1562年)有馬直義が口之津に港を開き宣教師を招いてキリスト教を布教させるが、花十字の文様が刻まれその頃の豪族の墓と推定される。

■大村市における主な観光スポット

市町名	分野	スポット	概要
大村市	温泉	サンスパおおむら	天然温泉、大村ゆの華は、水車が回るせせらぎの「宝庫原の湯」と開放感ある「箕島の湯」の2つの露天風呂を男女日替わりで楽しめる。
大村市	自然	琴平スカイパーク	標高330mの大村市郊外にそびえる琴平岳山頂一帯約7haの自然公園。多良連山の雄大な山並みをバックに眼下には大村市内はもちろん、世界初の海上空港「長崎空港」の浮かぶ大村湾、そして遠くには雲仙、西海橋方面まで一望できる。
大村市	自然	野岳湖公園	緑豊かな湖の周囲には、キャンプ場・サイクリングロード・水辺の広場・トリム広場などが整備され、憩いの場となっている。背後には、標高826メートルの郡岳を控え、近くには裏見の滝などもある。春には湖畔一帯に桜が咲き誇り、釣りも楽しみ四季を通じて行楽客に親しまれてる。
大村市	自然	鉢巻山展望所	360度の大パノラマが楽しめる鉢巻山山頂。9月下旬には、赤・白・黄色に彩られたおよそ100万本の満開の彼岸花をバックに地元特産品の即売会などが催される「ひがん花まつり」が開催される。
大村市	自然	裏見の滝自然花苑	落差30m、裏側から見ることもできる滝と4月上旬から5月初旬まで45種類約5,400本の世界のシャクナゲが咲き誇る。
大村市	自然	大村公園	大村公園は「さくら名所百選」の選定を受け、国指定の天然記念物オオムラザクラをはじめ2000本の桜が期間中公園一帯をピンク色に染め、人々を楽しませている。
大村市	自然	大村のイチイガシ天然林	イチイガシ林が群生している所は珍しく、九州では大分、熊本の群生林よりも優れているといわれている。
大村市	自然	黒木溪谷	多良岳に源を発する郡川上流の黒木溪谷。奇岩と濃い緑におおわれた溪谷の自然美は、途中にある萱瀬ダムの人口美と調和して、訪れる人の目を楽しませている。川遊びなども体験できる。
大村市	自然	大村神社のオオムラザクラ	60～200枚にも及び花びらの優雅な色合いとボリューム感は必見でる。国指定を受けているのは大村神社社殿前の二本である。
大村市	食	長崎スコアコーヒーパーク	日本初のコーヒー園。園内にはコーヒーの成木のほか、バナナ、パパイヤ、ブーゲンビリアなどもあり1年中南国気分を味わうことができます。
大村市	食	野鳥の森レストラン	地元産の新鮮野菜を使った郷土料理を提供するバイキング形式の野鳥の森レストラン。地元産の新鮮野菜をふんだんに使った家庭料理のほか、白あえやにごみなど大村の郷土料理が楽しめる。
大村市	体験	フルーツの里ふくしげ	大村市北部の福重地区の各農園で8月中旬～10月頃までナシ、ブドウ、1月～4月までイチゴ狩りなどが体験できる。
大村市	体験・食	おおむら夢ファームシュシュ	農業交流拠点施設で、手作りパン工房、手作りアイスクリーム工房、バーベキューレストラン、農産物直売所がある。手作りウインナー教室などの各種体験教室や新鮮いちご狩りも楽しむことができる。
大村市	歴史	大村純忠史跡公園	大村純忠終焉の居館跡を中心とした歴史公園。泉水の庭園跡が当時のまま残され、キリシタンや南蛮貿易と関わった大村純忠について知ることができる。
大村市	歴史	放虎原殉教地	131人が一斉に処刑された放虎原殉教地に、銅板のレリーフをはめ込んだ大きな殉教顕彰碑が建てられている。
大村市	歴史	旧円融寺庭園	江戸時代に造られた庭園の中でも、傑出した貴重な文化遺産であり、鳥居をくぐると左右に二つの池があり、石段を上がると正面に枯山水の石庭が広がっている。
大村市	歴史	五小路武家屋敷通り	玖島城下の武家屋敷街は5つの通りを中心としており、総称して五小路と呼ばれていた。玖島城築城後から通りが形成され、重臣などの住まいとなっていた。
大村市	歴史	第21海軍航空廠	東洋一を誇った飛行機製作工場で、主に零式水上観測機、流星、紫電改といった飛行機、発動機の製作・修理を手がけていた。周辺には、現在でも、飛行機防空壕「掩体壕」や工員養成所正門などが残されている。
大村市	歴史	旧楠本正隆屋敷	旧楠本正隆屋敷は、楠本正隆によって明治3年に建てられたもので、寄棟造り、棧瓦葺き、平屋建て一部2階の主屋と渡り廊下で結ばれた別棟の離れからできている。

■その他の島原半島（島原市、南島原市）

市町名	分野	スポット	概要
島原市	施設	平成新山ネイチャーセンター	雲仙火山の歴史から平成新山の誕生、平成新山を観測するシステム、火山と共生する動植物などを紹介している。屋外では、自然の再生のようすや火砕流堆積物のようすなどが観察できる。
島原市	施設	雲仙岳災害記念館（がまだずドーム）	全国初の火山体験学習施設。「平成噴火に立ち会う」「火砕流が走る」「驚きが見えてくる」知的エンターテインメントがいっぱい詰まった一大展示空間。
島原市	施設	観光トロッコ列車	九州一長いトラス式（橋脚のない）鉄橋が完成し、トロッコ列車が運行している。土石流災害のつめ跡や導流堤、砂防ダム等の防災施設、日本で一番新しい山「平成新山」を一望できる。
島原市	施設	ゆとろぎ足湯	平成16年11月1日にオープンした足湯。島原温泉100％掛け流しとなっており、24時間いつでも利用できる。
島原市	施設	泉源公園足湯	島原港に隣接している無料の足湯。島原温泉100％掛け流しとなっており、24時間いつでも利用可能。
島原市	施設	しまばら湧水館	島原の湧水スポットである鯉の泳ぐまちの中になる無料休憩所。湧水のせせらぎを聞きながらリラックス出来る、癒しのスペースとなっている。
島原市	施設	青い理髪館	大正12年に西洋建築の建物として建築された。元々は理髪館だったが、現在は喫茶店・ギャラリーとして島原城周辺の散策の拠点となっている。
島原市	施設	水無川1号 砂防ダム	日本最長(870m)を誇るこのダムは、水無川の砂防事業の根幹をなすもので、普賢岳の山体一帯に計画されている40基の砂防ダム群のうち最下流部に当たり100万立方メートルの土砂を溜めることができる。
島原市	自然	平成新山	平成3年5月20日初めての溶岩ドームが出現して以来、実に13の溶岩ドームが誕生。最初の溶岩ドームが出現して5年目を迎えた平成8年5月20日に、このドーム部分を「平成新山」と名付けた。
島原市	自然	眉山治山祈念公苑	島原大変遭難者の供養と「眉山治山」への祈りを込めて、聖観世音菩薩立像（北村西堂作）が建立されている。450本ものソメイヨシノが咲く桜の名所でもある。
島原市	自然	有明の森フラワー公園	総面積23,000平方メートルの中に10,000平方メートルの花壇があり、雲仙普賢岳（平成新山）をバックに素晴らしいロケーションが自慢の公園。
島原市	自然	島原まゆやまロード	平成12年3月21日に開通し、日本で一番新しい山「平成新山」の間近を通る県道。全長8kmの道路で、ルート沿いには「平成新山展望園地」があり、火砕流・土石流跡などダイナミックな自然の営み、日本一の砂防ダム群など迫力ある火山観光が体験できる。
島原市	自然	舞岳ふれあいロード（八八八八段）	有明町のシンボル「標高703mの舞岳」の中腹から山頂まで約3kmにわたり、間伐材を利用して創られた八八八八段からなる自然遊歩道。
島原市	自然	浜の川湧水	4つの区画に区切られた洗い場があり、食料品を洗うところ、食器を洗うところなど用途によって上から順々に水を利用していくような仕組みになっている。現在もそのしきたりが守られている。
島原市	自然	湧水庭四明荘	島原市の中心街（鯉の泳ぐまち）にありながら静かな竹まいを醸（かも）し出しており、庭内にある池からは、沸々と湧き出る大小の池が3つある。
島原市	自然	霊岳公園	霊丘公園はグラウンドで各種スポーツ大会やイベント等が開催され、また島原市体育館も隣接しており観光客をはじめ、市民にもなじみの深い公園である。
島原市	自然	水頭の井戸	昭和16年に地元住民の方が井戸を掘ったところ豊富な湧水が湧き出て、今も住民の生活の中にとけ込んでいる。井戸の横にいる亀に自分の年齢の数だけ湧水をかけると長生きできると昔から言われている。
島原市	自然	速魚川	上の町の金物屋さん「猪原金物店」のご主人がツギ井戸からの湧水を利用して作った。ハヤ、カニ、モエビ、ホタル、川ニナなども生息し、クレソン、セリ、ワサビ、石菖が自生する平成生まれの清流。
島原市	歴史	武家屋敷	島原城の西に扶持取り70石以下の徒士屋敷約700戸が軒を連ねていた。旧藩時代の徒士屋敷と生活用水として利用されていた406.8メートルの水路が保存されている。
島原市	歴史	島原城	白亜五層の天守閣を中心に、巽の櫓、丑寅の櫓がそれぞれ復元され、観光客をはじめ一般に公開されている。
島原市	歴史	旧島原藩薬園跡	国指定の史跡の旧島原藩薬園跡は幕末における小藩経営とはいえ奈良、鹿児島薬園跡に比べても、よく遺構をとどめた第一級の史跡である。

市町名	分野	スポット	概要
南島原市	自然	マリンパークありえ	有家町総合運動公園隣にある人工ビーチ施設。バリアフリー設計を採用しており、どんな人にもやさしく楽しんでもらえる公園である。
南島原市	施設	エコ・パーク論所原	エコパーク論所原は、日本の国立公園の第一号である雲仙天草国立公園内、南島原市北有馬町論所原にあり、環境に考慮したオートキャンプ場、体験農園や自然食レストランを有するセンターハウスなどがある。
南島原市	自然	岩戸山樹叢	昭和3年3月、国の天然記念物に指定され、亜熱帯植物約300種類が全山をおおっている。高さ97m、周囲約1kmのこの山には、貴重な植物群の宝庫とは別に観音道場の信仰の場でもあった。さまざまな信仰の遺跡や伝説が点在し興味深い場所である。
南島原市	歴史	眼鏡橋	この眼鏡橋は長さが7.9メートル。橋幅2.9メートル。径間6.2メートルのアーチ型石橋で嘉永6年(1853)に架設されたものである。多くの人が通行する公道に架けられた石橋としては、島原半島内では最古のものといわれ石橋文化財としては価値のある橋である。
南島原市	施設	道の駅「みずなし本陣ふかえ」	火山災害の驚異を後世へ残し伝えるために、普賢岳災害で被災した家屋11棟をそのままに残した土石流被災家屋保存公園や火山学習館や大火砕流体験館など火山災害について学べる施設。
南島原市	自然	かづさイルカウォッチング	天草灘から早崎海峡を回遊している約300頭を越える野生のバンドウイルカの群れに出会うことができる。
南島原市	施設	原城温泉 真砂	美しい雲仙の山並み(平成新山)や有明海に広がる天草島の山並みが一望できる県内屈指の大浴場を備え、気泡風呂・サウナ・打たせ湯などや、休憩室、研修室などがある。
南島原市	自然	口之津イルカウォッチング	早崎瀬戸には野生のバンドウイルカが生息しており、約300頭ぐらいの群れをなし、エサを求めて回遊している。イルカの群れが海面を泳ぐ様子やジャンプ等を観ることができる。
南島原市	自然	白浜海水浴場・キャンプ場	有明海と橘湾との境界に位置しており、白浜という名称のとおり海水は透明度が高く、白砂と緑の松林に囲まれた美しい自然環境である。背後にある松林は、キャンプ場として利用しており、家族連れの利用者が多い。
南島原市	自然	鮎掃りの滝	高さ約14m、幅約2mの滝。名前は、昔滝つぼの近くまで鮎が帰ってきていたことにちなむ。滝つぼで遊ぶほか、滝の上には一枚岩の平たい岩場があり、滑り台のようにして遊ぶ事も出来る。
南島原市	施設	湯楽里	布津の雄大な自然に包まれた保健福祉センター「湯楽里」は、100%の天然温泉を備え、皆様の健康管理意識の向上と、健康増進やリフレッシュに活用できる充実の施設である。
南島原市	自然	前浜海水浴場	天然の遠浅の砂浜で、磯遊びから本格的なマリンスポーツなど、子供から大人までマリンレジャーを楽しめる海水浴場。
南島原市	施設	旧大野木場小学校被災校舎	災害の驚異と自然災害のすざまじさを継承する火砕流遺構、砂防学習拠点のひとつとして保存している。また、国土交通省所管の大野木場砂防みらい館も併設されており、写真・パネル等による災害の状況・復興の様子などが見学できる。
南島原市	自然	戸ノ隅の滝	清水川上流の戸ノ隅渓谷にあるこの滝は幅5m高さが15mである。夏の涼気と秋の紅葉の渓谷美は多くの人々に親しまれており、四季折々の美観と白い瀑布とが見事な調和をみせている。
南島原市	自然	野田浜海水浴場	キャンプ場と併せて開設されており、キャンプ、釣りなどが同時に楽しめる。
南島原市	歴史	南島原市口之津歴史民俗資料館	長崎税関口之津支署庁舎跡を国より払下げを受け利用している明治洋風建物で、館内には先祖が残した貴重な生活用品・用具など多くの歴史的遺産が展示してある。
南島原市	歴史	布津キリシタン墓碑群	宮本墓地(通称おんぼ墓)の一角に、半円頭寝棺型、扁平蓋石型、切妻蓋石型(庵型)、丸型と四種類の墓石が保存されている。
南島原市	歴史	日野江城跡	キリシタン大名として知られた有馬氏の拠城跡であり、国の指定史跡である。
南島原市	自然	権田公園	標高100mから140mの小高い丘にあるこの公園からの眺めはすばらしく春は桜、ツツジなどが楽しめ、秋はコスモスなどが咲き乱れる。
南島原市	歴史	有家キリシタン史跡公園	島原の乱後350年忌の記念事業として設置されたこの公園には、類子(ルイス)銘入り扁平蓋石型、花十字紋入り扁平蓋石型等のキリシタン墓碑21基が合祀されている。
南島原市	歴史	原城跡	周囲4キロの三方を有明海に囲まれた難攻不落の天然の要害であり、別名「日暮城」とも呼ばれた美しい城であった。「島原の乱」の舞台となり、天草四郎率いる3万余人の一揆軍が12万の幕府軍を相手に、最後の一人になるまで戦い続けた場所。
南島原市	歴史	西望公園	園内や生家を復元した木造の記念館には、「平和記念像」をはじめ、彫刻・書・絵画など70点あまりの作品が展示されている。
南島原市	歴史	縄文の館	「原山支石墓群(原山ドルメン)」の隣に完成した縄文の館は、わらぶき風の外観で、鉄骨平屋建て(堅穴式住居の模倣)の宿泊施設四棟からなる。
南島原市	歴史	原山支石墓群(原山ドルメン)	日本最古最大の支石墓群。100基を越す集団墓地で縄文文化の面影を今もなお残す場所で当時の雰囲気がかもし出されている。
南島原市	歴史	深江キリシタン墓碑	漢字の草書で彫られたキリシタン墓碑。
南島原市	施設	深江埋蔵文化財・噴火災害資料館	南島原市深江町で出土した遺跡(土器等)や雲仙普賢岳噴火災害に関する写真等を展示している。
南島原市	自然	谷水の棚田	狭い耕地を有効に利用するために石垣を築き水田耕作が行われている。第5回美しい日本のむらコンテスト農林水産大臣賞を受賞、平成11年日本の棚田100選に認定されている。
南島原市	自然	白洲の真砂(リソサムニウム)	原城本丸沖合に浮かぶ浅瀬で、旧暦3月8月の最干潮時に姿を現す。さんごと異なり極めて珍しい植物の一種で、学名「リソサムニウム」といわれる。世界でも珍しくインド洋、イギリス海岸と当地の3カ所で見られないといわれている。
南島原市	歴史	吉利支丹墓碑	キリシタン墓碑の中で最も美しい形を持った半円中蓋石型の墓碑である。碑文は日本最古のローマ字金石文。碑の背面に大きな花十字紋が薬研彫りされ正面軸部は二重のふちどりを持った浅いくぼみをつけ、その中の上部に小さな横十字紋、軸面いっぱいにはローマ字碑文が刻んである。
南島原市	歴史	古園宝篋印塔群	20数基の宝篋印塔と麻袋に納められた一升ほどの古銭(渡来銭)とともに発掘された。
南島原市	自然	民宿加津佐バンガロー村	バンガローと併設して海水浴の休憩室としても人気がある。
南島原市	歴史	天ヶ瀬古墳	横穴式石室古墳で、前室と後室とからなっているが、うず高く盛られた土は1000年以上もの歳月にわたって風雨によってはぎとられたためか今では石が露出し時代の古さを感じさせるが、この地域にも古代人が居住していたことを証明する貴重な遺産である。
南島原市	自然	深江諏訪神社の社叢	巨木が立ち並ぶ神社の社叢

2) 近隣市町における観光政策等の整理

■雲仙市

雲仙市は諫早市（諫早湾干拓地）の東側に隣接し、長崎県を代表する温泉地、雲仙温泉や小浜温泉を有している。現在は、滞在型観光のメニュー化、温泉地観光の再構築などを中心に観光振興に取り組んでおり、諫早湾干拓における営農支援も主要施策として位置づけられている。

雲仙市の観光、農水産業施策の主なものは下表のとおりであり、環境や独自のまちなみ整備に力を入れており、特に環境保全型農業への転換という点で、諫早湾干拓地における取り組みとの連携が見込まれる。

事業名	事業概要
雲仙市観光交流拠点施設改修事業	観光交流拠点としての活用が見込まれる、「雲仙やまびこ会館」「小浜勤労者体育センター」の改修
全国棚田サミット開催事業	棚田サミット開催、棚田保全の必要性をPR
日韓親善交流事業	日韓両国の親善交流会など
観光振興事業	観光スポーツイベント、情報発信事業などの誘客、観光振興全般にかかるもの
雲仙市わがまち再生事業	市民自らが我が町を個性的で魅力ある町にするための街なみ整備費等の補助など
神代小路地区街なみ環境整備事業	雲仙市伝統的建造物群保存地区保存条例によって指定された神代小路地区の道路等整備と住宅等の修景
雲仙ブランド推進事業	市内で生産される農畜産物、近海で獲れる水産物のブランド化推進
農地・水・環境保全向上対策事業	環境保全型農業への転換促進、農村環境の保全向上
長崎県バイオマスの環づくり交付金事業	養豚における糞尿処理の適正化を図る（コンポスト建設など）

また、近代化産業遺産認定記念事業実行委員会主催の「雲仙市の観光産業遺産と見どころを巡るバスツアー」においても、従来の周遊ルートとは違い、潮受け堤防道路、観光直売所を経由する新たなルートが設定されており、産業観光資源として諫早湾干拓地（堤防道路）が認知されていることと併せ新たなルートの沿線市町においては誘客チャンスが創出されることとなる。



■大村市

大村市は諫早市（諫早湾干拓地）の北側に位置しており、長崎県の空の玄関口である。

大村湾や多良山系をはじめ、大村公園の桜や花菖蒲、裏見の滝自然花苑のシャクナゲなど豊かな自然や武家屋敷、旧円融寺庭園、長崎街道などの歴史・文化資源を数多く有しており、これらの豊富な観光資源を最大限に活かし、「歴史観光立市」を目指した魅力あるまちづくりに取り組んでいる。

これまでは施策の方向性として、イベント型誘客が主であったものの、現在はそれに加え、大村の歴史をテーマとした誘客の仕組み構築や閉鎖性水域である大村湾の環境保全やエコツーリズムでの活用も進められている。

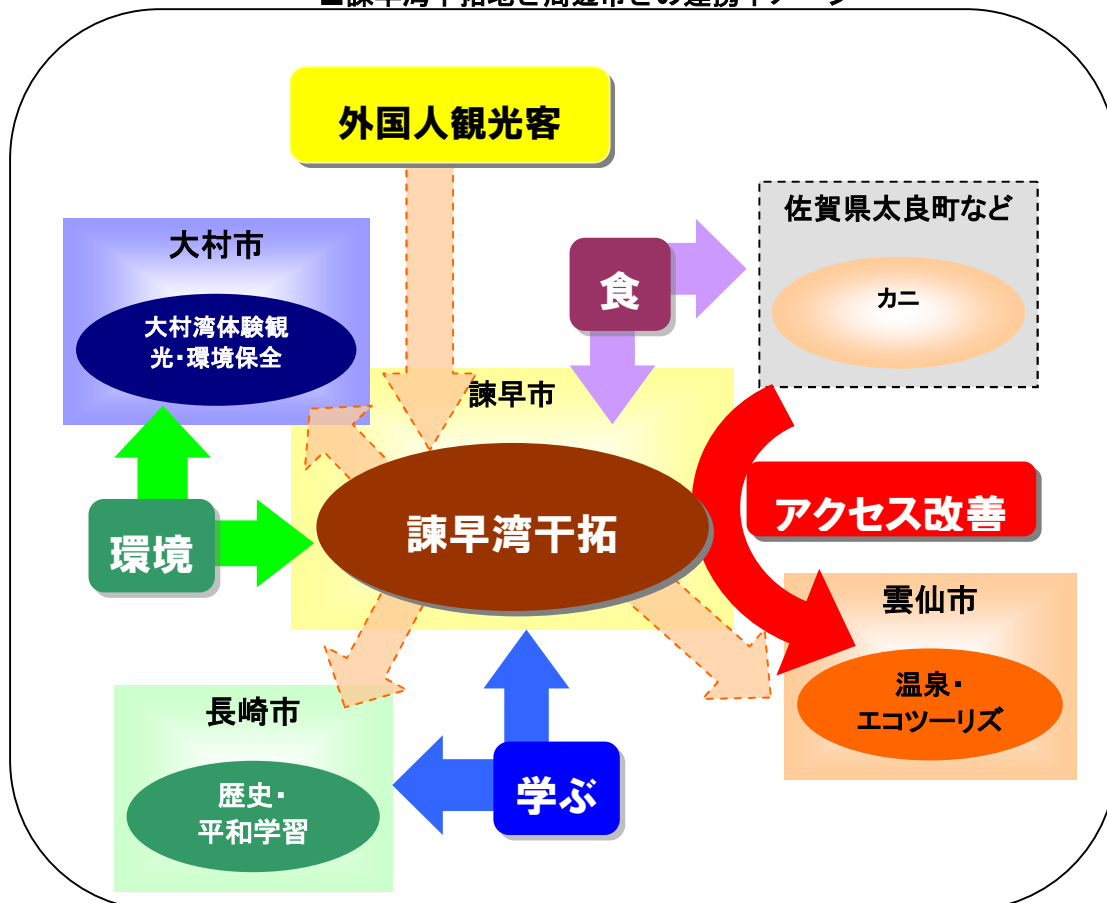
事業名	事業概要
おおむら秋まつり助成事業	平成13年度から「大村まつり」と「農林水産まつり・ぼーぶらフェスティバル」を統合し、新たな観光イベントとしてスタートしたおおむら秋まつりに対して定額補助する
夏越まつり助成事業	「おおむら夏越まつり」を開催するための舞台設営費の一部を助成
天正少年夢まつり開催費助成事業	「歴史観光立市」を目指して、「天正少年夢まつり」を行う「天正少年夢まつり推進市民会議」に対して定額補助する。
歴史観光立市推進事業	「歴史を活かした観光振興計画」に基づき観光客誘致事業を展開する。 ・歴史観光の案内基盤の整備事業 ・市民参加の歴史観光推進事業 ・情報発信の強化事業 ・歴史を活かしたツアー商品企画開発事業 ・歴史を活かした観光イベント開催事業 ・歴史観光啓発事業
観光客誘致助成事	大村市観光コンベンション協会が実施する「花まつり」「花火大会」「おおむらフラワー大使事業」「観光バスツアー」などの観光客誘致事業に対して補助
観光案内所運営事業	昭和 55 年度に大村市観光案内所を設置して観光案内業務及び物産などの PR 促進活動を行っており、平成 13 年度から(社)大村市物産振興協会に委託
野岳湖周辺活性化イベント事業	・地元開催のシャクナゲまつり期間中(4月上旬から5月上旬)に交通整理・仮設トイレ設置を行っている。 ・シャクナゲまつり期間中に限り、平成16年度から入場料の徴収を(社)大村市シルバー人材センターへ委託している。 ・地元開催のひがん花まつり期間中(9月下旬)に仮設トイレ設置を行っている。
コンベンション誘致事業	観光コンベンション協会が行うコンベンション誘致事業に対して、総事業費のうち開催助成金に係る部分を 2/3、その他の部分を1/2 以内で補助する。観光コンベンション協会がコンベンション主催団体に対し、100 名以上の市内宿泊を伴う場合は助成を行う。

3) 諫早湾干拓による近隣市町における観光の新たな方向性の検討

諫早湾干拓地が出来たことで、近隣市町の地域振興、観光振興策においても、線的、面的に新たな展開可能性が広がってくる。

これらを体系的に整理することで、近隣市町も巻き込んだ諫早湾干拓地を中心とした交流拠点づくりの方向性を明示化することが可能となり、ついでに、「農業」「環境」「観光」の融合効果を更に広範囲にもたらすことが出来ることとなる。

■諫早湾干拓地と周辺市との連携イメージ



■雲仙市

諫早湾干拓によって雲仙市へもたらされたインパクトでもっとも最たるものが「交通アクセスの改善」である。諫早市高来町から雲仙市吾妻町へ約 7 Km の潮受け堤防道路が開通したことにより、従来よりも約 30 分の時間短縮が可能となった。

また、当該道路自体も諫早湾を横断していることで、海と山（多良岳、雲仙普賢岳）の調和の取れたすばらしい景観を楽しむことも可能となった。このことにより、観光需要の拡大、新たな観光ルートの創出など、雲仙市のみではなく、島原市、南島原市を含めた島原半島全体としての観光にも新たな可能性をもたらすと思われる。





【雲仙市観光直売所】

潮受け堤防道路の開通に伴い、堤防道路の雲仙市側接合部付近のロードサイドに市が観光直売所を設置し、雲仙市の特産品等を販売している。

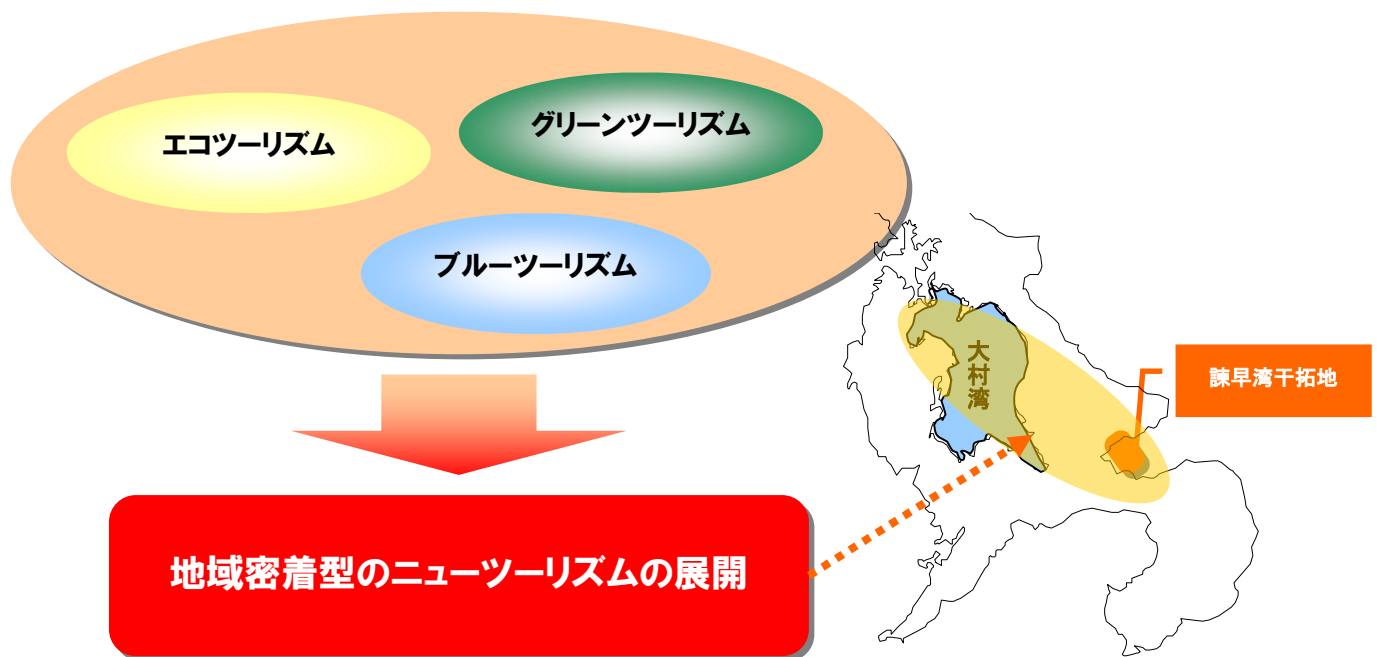


■大村市

大村市は豊かな観光資源を活かした「歴史観光立市」を目指した町づくりに取り組んでおり、体験型観光施設「おおむら夢ファームシュシュ」や大村グリーンツーリズム推進協議会を中心としたグリーンツーリズムや、市の西部に位置する「大村湾」での沿岸市町によるブルーツーリズムの取り組みが実施されている。

「大村湾」については、その地形的な特徴から外海との海水交換が少ない閉鎖性水域であり、水質改善などの環境保全、スナメリなどの希少動植物の生息などの視点から、大村湾全体をフィールドとしたエコツーリズムの必要性も提言され、ネイチャーツアーなども実施されている。

そこで、諫早湾干拓地における先進的環境保全型農業や調整池、自然干陸地における新たな生態系の創出によるエコツーリズムを当該地域のみに限定するのではなく、面として捉えることでツーリズムの幅を広げ、その実効性、有効性を高め、広域的かつ地域に根ざした視点からの「ニューツーリズム」として実施することができると考えられる。



■長崎市など

島原半島、大村市などの他に、長崎観光の中心でもある長崎市との連携も考えられる。

長崎市においては、海外との交易の歴史や数多くの観光施設と併せ、世界で唯一の被爆地として、平和学習の場としても多くの人が訪れている。

そこで、今回、日本でも有数の大規模干拓地が完成し、入植者全員のエコファーマー認定や太陽光発電の活用などの環境保全型農業、調整池における新たな生態系の誕生、干拓の歴史といったものを体感することが可能となり、長崎市を起点とした交流人口の拡大も図ることができる。

また、現在、長崎県において「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録に向けた取り組みが活発となっており、長崎市を中心に県北地区（佐世保市、平戸市、小値賀町）、島原半島（南島原市）、離島（五島市、新上五島町）と県下全域に分散している。

世界遺産登録後には多くの観光客が長崎を訪れると見込まれており、その際も大きな人の流れの中において、諫早湾干拓地やその周辺における様々な取り組みは、観光の幅を広げ、面的観光の中心として大きな役割を果たすと思われる。

2. 3. 3 諫早湾干拓地を中心とした新たな観光スキーム構築と具体的手法の検討

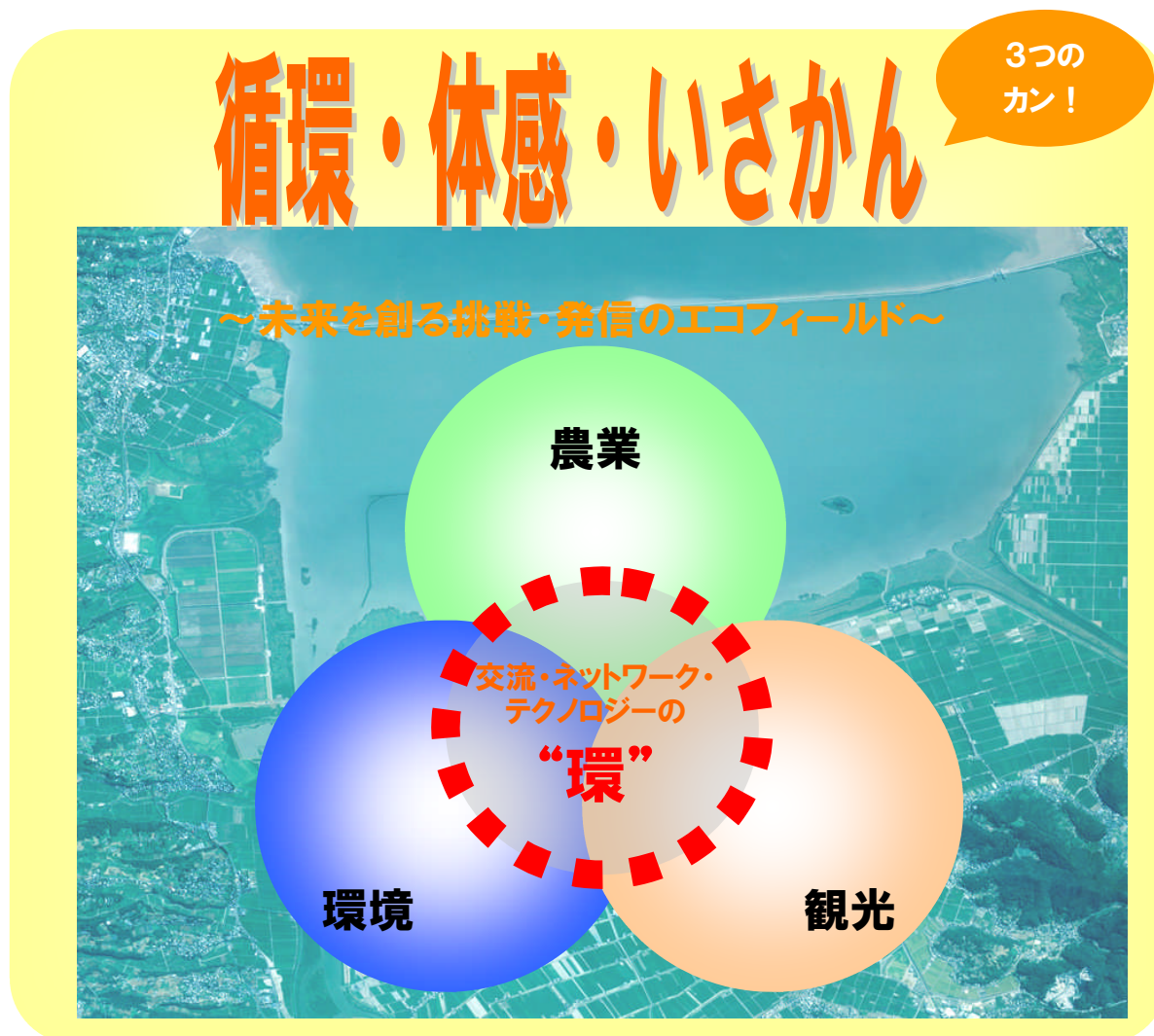
1) 諫早湾干拓地及び周辺地域の観光資源としての利活用方策の検討

(ア) 諫早湾干拓地及び周辺地域の観光資源としての利活用方策の検討

前章までの諫早市や周辺市町における、地域振興、観光振興の方向性を踏まえつつ、諫早湾干拓事業によって地域にもたらされた新たな地域資源、地域価値の向上を有効活用しながら、諫早湾干拓地を中心に交流が生まれる様なスキームの構築を検討していく必要がある。

検討に当たっては、テーマを設定しそのテーマに沿った方向性、メニューを作り込んでいくことで重要であり、諫早湾干拓地を観光資源として活用していくためには、そこでしか味わうことの出来ないストーリー性を付与し、各観光資源を関連づけ、一貫性を持たせた面としての観光スキームを構築する必要がある。

(a) 諫早湾干拓地における農業と環境及び観光の融合推進の基本コンセプト

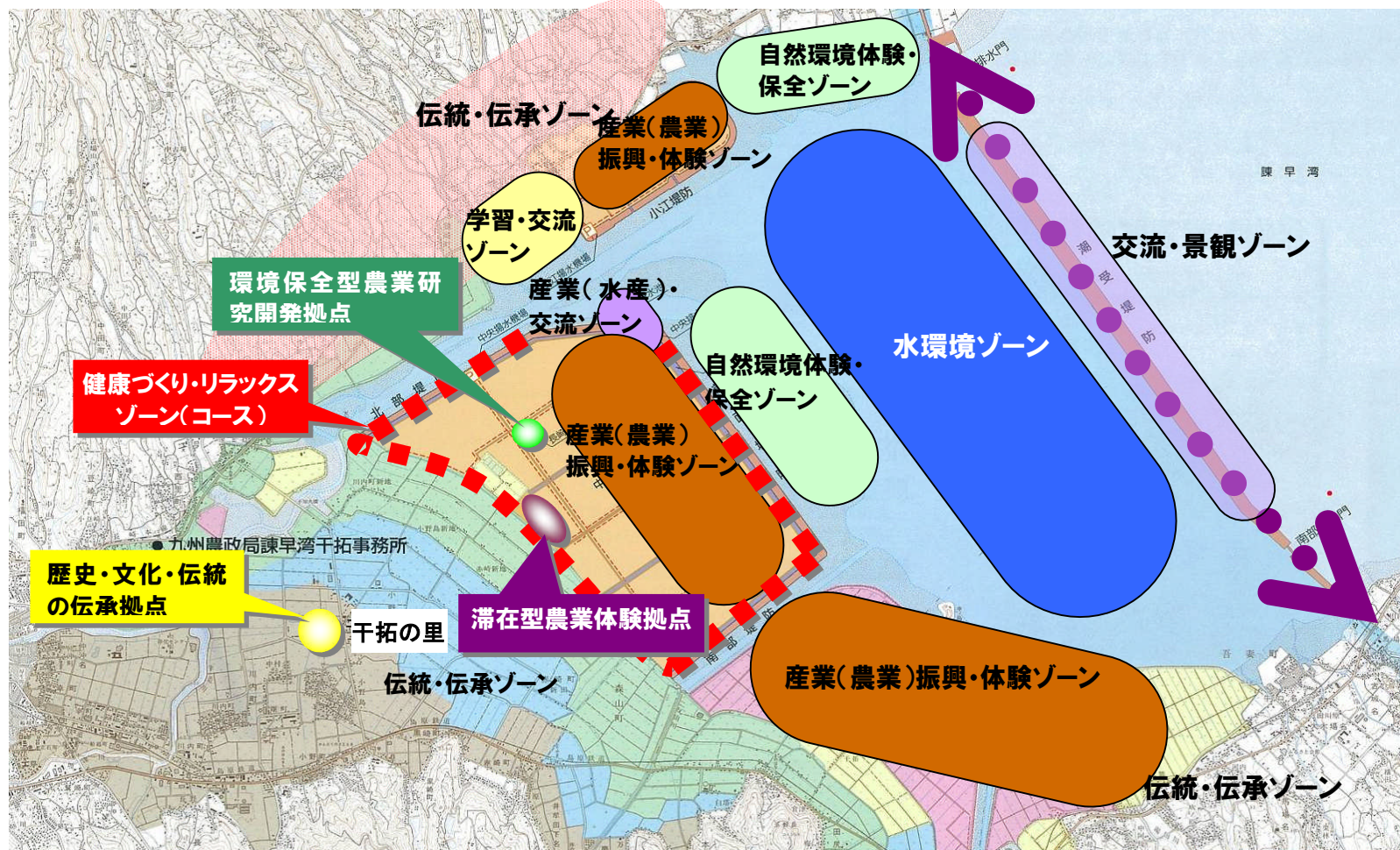


(b) 諫早湾干拓地の活用に係るテーマ設定

守る	自然環境の創出と保全の“環” 干拓事業によって創出された干陸地や調整池及び新たに生まれた生態系を守り・育て、次代に引き継ぐ親水空間の創出を図るとともに、環境共生型の地域づくりの拠点としていく。 【個別テーマ】 ・自然環境の保護 ・親水空間の創出 ・閉鎖性水域における水環境改善 ・防災効果による環境改善
創る	環境保全型農業を中心とした資源の“環”による地域活性化 太陽光発電、バイオマス燃料の活用による環境保全型農業による新たな生産体系の提案や生産物などの付加価値向上による地域産業振興を図ると伴に、それらを活用した産業観光を実現する。 【個別テーマ】 ・環境保全型農業モデルの確立 ・新たなブランド創出 ・水産業の振興 ・水環境に関する研究機関誘致 ・域内循環型の産業構造構築
感じる	「環境・農業・健康」による人の“環”づくり 広大な農地とそこで営まれる環境に優しい大規模農業、そして、周辺には新たに自然環境・生態系が育まれている諫早湾干拓地をエコフィールド諫早（Eco Field Isahaya 略して EFI(エフィー)）を中心に地域密着型のニューツーリズムを展開し、人・モノ・情報の交流を生み出し、様々な人々が様々な視点から学び、感じる事ができる拠点とする。 【個別テーマ】 ・環境学習の場 ・農業体験の場 ・趣味、スポーツの実施場所 ・健康づくりの場 ・憩いの場
誇る	積み重ねられてきた歴史と誇りの“環” 約 450 年前に始まった諫早湾の干拓が、現在の約 35km²（約 3,500ha）の県下で最大の穀倉地帯の諫早湾の平野となるまでの歴史や最大 6 m30 c m という干満差のある海を漁場とする伝統性の強い漁法など、長年地域に培われ、引き継がれてきた伝統、伝承の拠点としての活用を図る。 【個別テーマ】 ・干拓の歴史伝承 ・伝統の継承 ・地域アイデンティティ醸成

(c) ゾーニング案

前項におけるテーマに沿った諫早湾干拓地の有効活用を検討するにあたり、広大な干拓地や周辺地域の持つ特性に基づくゾーニングと今後、諫早湾干拓地で計画されている施設整備等を総合的に把握、検証することで、具体的かつ実効性の高い観光メニュー創出を図る。



諫早湾干拓地整備計画



照明施設



休憩所



遊水施設



掲示施設



ベンチ



木道



トイレ



遊歩道・散策路の整備

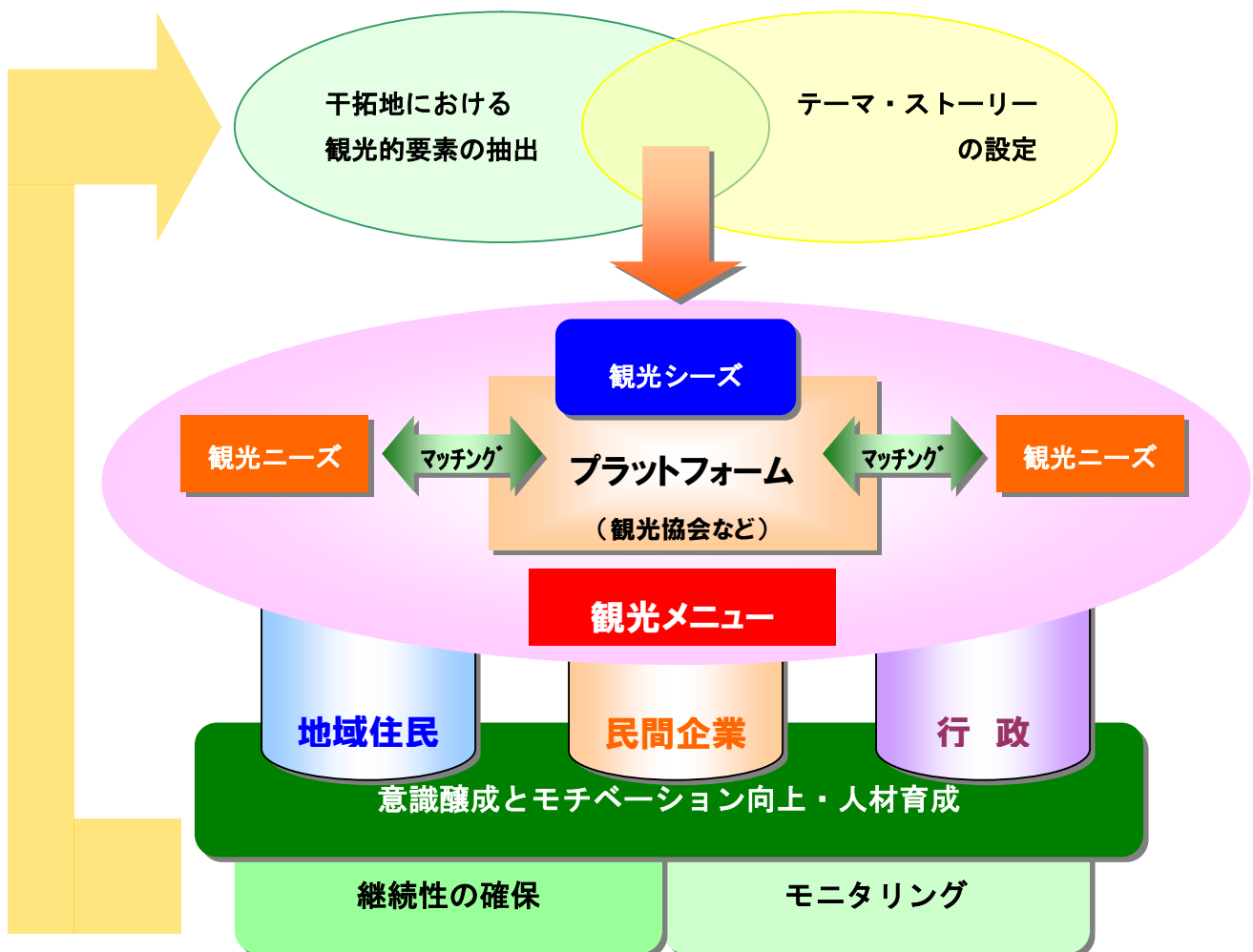
2) 観光スキーム構築についての検討

これまでの干拓地における地域資源の「観光」での活用については、干拓地内で営まれる生産活動との連携、干拓事業として必要不可欠なハード（干拓地内の幹・支線道路、堤防など）、干拓事業における付加価値的なハード（農道空港、干陸地など）といったものを直接的に取り込み、観光資源として「点」で活用しているケースが多いと推測される。

しかしながら、ハードのみを活用し「点」での観光はそこで集結してしまい、それ以上の拡がりを持たせることは困難であり、地域活性化への貢献度も低くなる。

そこで、本項においては、諫早湾干拓地の特徴でもある農業（大規模農業）と環境（環境保全型農業、エコファーマー認定など）に係るハード、ソフトが共存し、そこに観光という新たな視点が加わることで、それぞれが持つポテンシャルを引き出し合いながら、正のスパイラル効果が創出されるようなしくみについて考察し、全国における干拓地の有効利用方策のアイデアとして活用可能なスキームの構築について検討する。

干拓地を活用した観光スキーム



（a）干拓地における観光的要素の抽出

観光には大別すると、「都市型観光」と「自然型観光」に区分することが出来ると考えられる。「都市型観光」においては、テーマパークなどの大型集客施設やイベント等による集客、特徴的なまちづくりによる地域ブランド化などの手法により、非日常的な楽しみを享受できることが可能となるものであり、一方、「自然型観光」は、各地域で培われ、伝承されてきた伝統・文化に基づいた日常生活の中において、人の営みそのものに、そこを訪れた人々が感動、共感を感じることで観光地として成り立っていくものである。

人々がどのような点に感動や共感を覚え、訪問したいと思うのかについて、十分に検討をし、明らかになった要素について「点」としての把握、「線」での連携、そして「面」での活用と、拡がりを持たせていくことが重要となる。

そこで、諫早湾干拓地について見てみると、約 400 年に渡る干拓の歴史とそこで営まれてきた人々の生活、日本有数の大規模農業と環境保全型農業の実現、平野部の少ない長崎県における貴重な広大な敷地と直線道路など、その観光資源としては大いに可能性を秘めていると思われる。

（b）テーマ、ストーリーの設定による目的の明示化

近年の観光客は、従来型の物見遊山的な観光ではなく、何らかの目的や期待を持って各地を訪れている。

そこで、「点」として明らかになった観光資源（要素）をつないでいくための【テーマ】を設定し、面として拡げていくための【ストーリー】が重要となる。

【テーマ】については、観光の対象物の創出された目的、歴史、効果などを踏まえ、全ての人々がイメージできるようなものとする必要があり、【ストーリー】についても、過去から現在までの歴史、現在から未来に向けた希望、現在における各観光資源の有機的結びつきとつながりの明示化ツールとして必要不可欠であり、観光客への訪問インセンティブ創出の基礎となるものである。

（c）観光シーズと観光ニーズのマッチング

観光に活用可能な資源の掘り起こし・整理された観光シーズと観光客が旅（観光）に求めている観光ニーズのマッチングの仕組み構築が誘客の基本であり、リピーター化の第一歩であると思われる。

その前提として、観光商品をどのような視点から提供していくのか、作り込んでいくのかという点がポイントとなる。

従来は「プロダクトアウト」の視点による観光商品の提供が中心であったが、消費者ニーズ、観光ニーズの多様化により対応が困難となっており、「マーケットイン」の視点による観光商品提供が不可欠となってきた。

マーケットインの視点からの観光シーズと観光ニーズを結びつけるプラットフォームと

しての機能を担う機関の設置が必要であり、観光協会等がその候補として考えられる。

（d）観光振興に向けた意識醸成とモチベーション向上

観光振興においては、地域住民、民間、行政が一体的に取り組む体制が構築できるかということが成功の鍵を握ると言っても過言ではない。特に立ち上げの時期、これから観光振興を目玉に推進していこうとする地域においては、まずは行政がどれだけ観光振興に情熱を傾け、地域住民の意識醸成を図りながら、地域における取り組み体制を構築できるかが重要である。

また、それらの取り組みの継続性を確保し、持続可能な観光振興とするためには、交流人口の拡大により再生した地域の将来像を地域住民にイメージさせ、目標に向かって取り組んでいけるようなモチベーションの維持・向上を図ることも必要である。

（e）プロジェクトマネージャーの育成（人材育成）

どのような事業においても、事業を中心となって推進していくキーパーソンが存在が必要不可欠であるとともに、その人材育成も大変重要な課題である。

地域において、観光による地域振興の将来像、ビジョンをしっかりと持ち、それらの実現に向けた人材育成を進めていく必要がある。

しかしながら、これまでは既に地域に存在したキーパーソンを中心に各事業が組み立てられてきており、この手法であれば、人材がいない地域では新たな発想、事業を生み出すことは不可能となってしまう。

そこで、これらを克服するために、各地域における発展可能性を高めるためには前段における将来像、ビジョンを達成するためのロードマップを描き、それらを担っていく人材像を明らかにしていく。そして、必要とされる人材を戦略的に育成し、事業実施のキーパーソンとしていくことで地域活性化に向けた活発な取り組みが可能となる。

また、戦略的に育成することで、企画提案、実現に向けたスキーム構築、実施体制整備、実施におけるハンドリングなど一貫してプロジェクトをマネジメント出来るレベルの高い「プロジェクトマネージャー」の育成が可能となる。

（f）継続性の確保とモニタリング

観光振興の取り組みにおいて、行政のみではなく、地域住民や民間の担うべき役割も大きくなる。

しかしながら、人的、財源的な裏付けがなければ、その取り組みは短期的なものとなり、観光による地域再生の達成は不可能となる。

そのため、人的なものについては前項による戦略的人材育成により人材確保と組織化による活動の継続性の確保、財政的な面では、新商品開発、有償ガイドなどのコミュニティビジネス化による財源確保が取り組みの継続性確保には必要不可欠である。

また、観光客のニーズは多様化しており、オンタイムでそれらに対応していく事が求められるため、様々な取り組みについては、モニタリングによる検証やサービスレベルの維持向上への取り組みをPDCAサイクルにより運用することにより、持続性のある観光振興、観光サービスの提供が可能となる。

3) テーマごとの観光メニュー等の検討・提案

(a) 諫早湾干拓地及び周辺地域（隣接）における地域開発メニュー

テーマ		観光メニュー	概要
守る	親水空間の創出	諫早湾、調整池、遊水池、本明川河口口などにおける親水空間の整備	諫早湾干拓事業における大きなテーマである水との関わりを更に深めるため、水辺において、ベンチや遊水施設等を整備する。
	自然環境保護	エコカー試験コースの整備	中央干拓地内の幹・支線道路を活用したエコカーの試験コースを整備する。
		エコカーレースの誘致	エコカー試験コースの整備に伴い、エコカーレースも誘致する。
		環境保全型農業の実証実験	農業への太陽光発電、バイオマス燃料の活用について実証実験を実施し、視察団、修学旅行などの受入を促進する。
	環境保全のランドマーク	C S R 導入促進	諫早湾干拓地を民間企業におけるC S R 活動地域として位置づけて頂き、交流人口の拡大と地域価値向上を図る。
創る	水産業の振興	鰻、スッポン養殖	中央干拓地内の、栄養価の高い水が豊富な遊水池において「鰻」「すっぽん」を養殖し、特産品の生産、販売をさらに促進する。
	環境保全型農業の確立	環境保全型農業のモデル地域としての地位確立	1 区画 6 ha の大規模かつ環境保全型の農業モデルの先進地として研究、情報発信することによる視察等による交流人口拡大を図る。

	新たなブランド創出	諫干ブランドの確立	諫早湾干拓地の栽培される低農薬の“エコ野菜”や“スッポン”などの高付加価値化やそれらを利用した限定メニューなどの創出。
	域内循環型モデルの構築	植栽を活用した資源創出	中央干拓地内の幹・支線道路のロードサイドへ菜の花、椿など資源として有効活用できる品種を植栽し、環境保全型農業への活用と修景を図る。
		太陽と大地の恵により営まれる町の創出エコタウンモデル地域	太陽光発電等による新エネルギーの創出、農家の生活、農作物の生産、特産品の創出等を域内で完結できるスキームを構築し、それらに使用されるエネルギーを太陽光発電等で賄い、さらにそれらに使用された資源を再活用できるしくみを検証し、全国に情報発信する。
感じる	農業体験の場	農業についての学びの場創出	子どもたちを対象とした、農業や食について学べる施設を整備し、農業学習の拠点施設とする。
		宿泊型農業体験施設の整備	干拓地内に農家住宅や宿泊体験施設を整備し、農業体験の促進と交流人口拡大を図る。
	農業体験の場 環境学習の場	修学旅行の誘致	干拓歴史文化資料館の整備などにより干拓と水環境、新たな生態系といった総合的な環境学習、様々な農業体験など出来る場として、修学旅行を誘致する。
	環境学習の場	ビオトープの設置	小江干拓地における干陸地にビオトープを設置し、自然環境学習の拠点とする。
	健康づくりの場	ウォーキングコースの整備	内部堤防上に舗装整備が計画されており、それらを活用したウォーキングコースを整備する。
			潮受け堤防道路の歩道部分について、両端を起点とした距離等を表示することで、ウォーキングコースとしての図る。

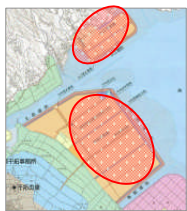
	趣味、スポーツの実施場所	マラソン大会等の実施	内部堤防道路、潮受け堤防道路を活用し、ツーデーウォークなどのウォーキングや駅伝大会などを誘致する。
		観鳥施設等整備	自然干陸地に数多く飛来する鳥類の観察ポイントとするために、解説板の設置や観察ポイントマップなどを作製する。
		ラジコン飛行場の整備	小江地区の干陸地は広大なスペースがあり、国道との連結も容易なため、各種イベントやニッチ市場を対象とした施設を整備し、交流を促進する。
	憩いの場	エコ・レストラン等の設置	干拓地内で取れた野菜等を提供するレストランや直売所を設置する。
		干拓地内案内サインの整備	広大かつ同じような光景が広がる干拓地において、来訪者が迷わずに回遊できるような案内板などのサイン整備を推進する。
		観光マップの作成	干拓地マップ、周辺地域における水マップ、食事マップ等観光客の回遊性を高めるしくみを構築する。
		花畑の設置	ほ場や堤防法面、幹支線道路脇等への菜の花、ひまわり、椿などを植栽し、景観形成と資源活用を図る。
		ユニバーサルデザインの導入	木道、展望台、休憩所など干拓地内における施設、道路、トイレなど環境のみでなく人にも優しいエリアとする。
		各種イベントの開催	自然干陸地における各種イベントの開催
誇る	歴史文化の伝承	干拓の歴史資料館の強化	干拓の里や干拓堤防道路管理事務所に干拓資料館が設置されているものを、1カ所に集約し、干拓の歴史伝承の拠点施設とする。
		観光ガイドの育成と組織化	観光客が地域の歴史を肌で感じ、感動、共感を得てもらうための観光ガイドの育成とガイドの組織化を図る。

(b) 地域開発メニューの展開イメージ

テーマ	親水空間の創出
メニュー	堤防の法面などにおける親水性確保
実施体制	行政、地域住民
事業内容	・干拓地や干拓道路においては、調整池、遊水池、諫早湾、河川などの水辺環境が数多く存在する。その水辺空間において、デッキなどの遊水施設やベンチの設置、堤防の法面への観葉植物等の植栽をすることにより、干拓地を訪れた方々の憩いの場を創出する。 ・また、地域住民とともに法面等の維持・管理を行う体制を構築する。
効果	・干拓地において憩いの場が創出され、誘客インセンティブとなる。 ・住民との共同管理により、地域資源としての住民意識の醸成が出来る。
課題・問題点	・水辺における安全性の確保 ・自然の最大限利用
実施場所	 ・干陸地 ・幹線排水路護岸 ・潮受け堤防道路中央部の展望施設

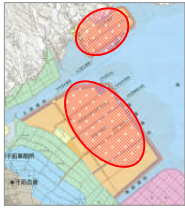
テーマ	自然環境保護
メニュー	・エコカー試験コースの整備 ・エコカーレースの誘致
実施体制	民間企業、地域住民など
事業内容	・干拓地内の幹・支線道路をソーラーカーやエコカーの試験コースとして活用する。 ・ソーラーカー、各種エコカーレースの実施。
効果	・諫早湾干拓地における太陽光発電やバイオマス燃料の農業への活用とソーラーカー、エコカーといった環境保全への取り組みの一貫性を明示化することができ、エコフィールドとしての諫早湾干拓地のイメージ向上につながる。 ・太陽光パネルの製造に注力しており、今回の研究事業へも参画している三菱重工業㈱と系列の三菱自動車による研究開発拠点としてのアピールにもなる。
課題・問題点	・幹・支線道路の利用における、農業者との調整が必要。 ・日照等の気象条件が試験コースとして可能かどうかの検証が必要。
実施場所	 ・幹・支線道路

テーマ	自然環境保護
メニュー	環境保全型農業の実証実験
実施体制	民間企業、農業者、行政
事業内容	諫早湾干拓地内において、電動農耕機等の導入、太陽光パネルの設置による発電や農耕機への供給体制、農作物残渣、雑草などのバイオマス燃料としての活用によるハウス暖房など、次世代型の環境保全型農業のスキーム構築について実証実験を行い、全国へ情報発信していく。  (出典: 築水キャニコム HP)  (出典: 三菱重工業(株)HP)
効果	・ 農業関係者、修学旅行などの事業視察（見学）による交流人口拡大が図られる。 ・ 環境保全型農業に関連する民間企業等の研究拠点化も見込まれる。
課題・問題点	・ 太陽光パネルなどの施設整備に関するイニシャルコストが大きい。 ・ 一貫した研究体制を構築するため、各専門分野における民間企業の参画インセンティブ創出が必要。
実施場所	 ・ 中央干拓地 ・ 小江干拓地

テーマ	環境保全のランドマーク
メニュー	C S R (Corporate Social Responsibility : 企業の社会的責任) 導入
実施体制	民間企業
事業内容	・近年、民間企業は CSR 活動の一貫として環境保全活動や社会貢献活動に積極的に取り組んでおり、諫早湾干拓地で営まれる環境保全型農業をその活動対象として設定して頂き、農業体験や環境保全活動を実施する。
効果	・民間企業における C S R 活動の場となることで、知名度、イメージアップを図ることが出来る。 ・交流人口拡大による地域活性化が期待できる。
課題・問題点	・民間企業参入インセンティブ向上のためには、諫早湾干拓地での取り組みの方向性の明示化やイメージ創出が必要。 ・諫早湾干拓地における環境保全等の取り組みの継続性確保が必要。
実施場所	 ・中央干拓地 ・小江干拓地

テーマ	水産業の振興
メニュー	干拓地内における鰻、スッポンの養殖
実施体制	民間企業、漁業者など
事業内容	干拓地内の遊水池において、諫早市の食の名物である鰻やスッポンの養殖をし、それらを提供、販売するレストラン等を併設する。 
効果	- 交流人口拡大による地域活性化が期待できる。 - 諫早湾干拓地において、地域資源を有効活用することが可能となると共に、水産業といった他分野をも導入することにより観光メニューとして幅を広げることが出来る。 - 農産物と水産物のコラボレーションによる売り上げ増加が図られる。
課題・問題点	養殖による遊水池の水質悪化を防ぐ方策を検討することがある。
実施場所	 - 遊水池 - 幹線排水路

テーマ	環境保全型農業の確立
メニュー	環境保全型大規模農業のモデル地域としての地位確立
実施体制	農業者、行政など
事業内容	・全国的（北海道を除く）にも例の少ない、大規模かつ環境保全型農業の先進地として、大型農業機械等の導入実験などを行うとともに、土木業などの他分野から業種転換による農業への参入事例としても情報発信を実施していく。
効果	・農業関係者、他業種関係者等の視察増加による地域活性化が期待できる。 ・大型農業機械メーカーの実験、研究場所としての需要が発生する。
課題・問題点	・実験場所の提供や営農者の協力が必要。 ・視察等に対する地元での対応体制確立が必要。
実施場所	 ・中央干拓地

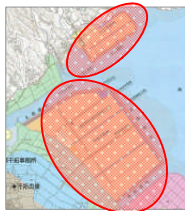
テーマ	新たなブランド創出
メニュー	諫干ブランドの確立
実施体制	農業者、地域住民、民間企業、行政
事業内容	・ 諫早湾干拓地で低農薬かつ循環型農業で栽培された「エコ野菜」や干拓地内で養殖された「スッポン」などの商品ブランド化による高付加価値化とそれらを利用した諫早湾干拓地限定メニューなどの創出。 ・ エコフィールドとして諫早湾干拓地で営まれる生産活動や景観等全てを包括した地域ブランド創出も図る。 ・ 干拓地内のみではなく、周辺地域をも包括した食マップの製作。
効果	・ 地域ブランド確立による諫早湾干拓地訪問インセンティブ創出。 ・ 地域住民や行政などにおける意識醸成を図ることができる。 ・ 商品のブランド化による販売促進と就農促進による地域活性化。
課題・問題点	・ ブランド化の取り組みにおける方向性、ビジョンの統一が必要。 ・ ステークホルダーの一体となった取り組み体制の構築。
実施場所	 ・ 中央干拓地、小江干拓地

テーマ	域内循環型モデルの構築
メニュー	植栽等を活用した資源創出と循環スキーム構築
実施体制	農業者、民間企業
事業内容	・中央干拓地内の幹・支線道路のロードサイドや夏場のほ場等へ菜の花、ひまわり、椿などを植栽し採取された種を食用油やハウス暖房燃料として有効活用し、環境保全型農業の促進と景観形成を図る。 <pre> graph TD A[景観形成] --> B[原料] B --> C[食用油] C --> D[ブランド化・地産地消] C --> E[ハウス暖房の燃料として活用] D --> F[エコ野菜生産] E --> F G[夏場のほ場で栽培] --> A </pre>
効果	・資源の有効活用が図られる。 ・資源の循環スキーム構築による地域ブランド化の推進が図られる。 ・コミュニティービジネス化を図ることで、地域における取り組みの継続性を確保することが出来る。 ・地域住民における環境に対する意識醸成が出来る。
課題・問題点	・事業化に必要な原材料ロットの確保。 ・関係事業者の協力体制の構築。
実施場所	・中央干拓地 ・小江干拓地 ・干陸地

テーマ	域内循環型モデルの構築
メニュー	太陽と大地の恵により営まれるエコフィールド創出 (エコフィールド諫早 (Eco Field Isahaya 略して EFI (エ フィー))
実施体制	農業者、地域住民、民間企業、行政など
事業内容	・ 電動農機具、ビニールハウス暖房、干拓地で栽培された農作物の加工、農家住宅等で使用するエネルギーを太陽光発電、バイオマスエネルギーで賄うことにより、環境負荷が非常に少ない日常生活を実現し、今後の環境対策型まちづくりの先進モデルとして情報発信していく。 ・ 太陽光発電や農産物残渣・雑草・畜糞等のバイオマスエネルギーの施設を整備する。 ・ エリア内については、全て電動のみとする。来訪者等についてもエリア外へ駐車の上、電動バス等で回遊できるようにする。
効果	・ 環境負荷を軽減したまちづくりのモデルを提案することにより、環境に対する意識醸成を図ることができる。 ・ 今後のまちづくりにおける方向性を具体的に示すことが出来る。 ・ 先進地視察による交流人口の拡大で地域活性化を図ることが出来る。
課題・問題点	・ 民間企業との共同開発の体制構築が必要。 ・ 需要に対応できるような発電システムの開発が必要。 ・ 来訪者の車でエリア内への立入制限方法の確立。
実施場所	 ・ 中央干拓地

テーマ	農業体験の場創出
メニュー	農業についての学びの場創出
実施体制	地域住民、行政
事業内容	・子ども達を対象とした、農業や食について学べる施設を整備し、農業学習の拠点とする。
効果	・農業や食に対する意識を高め、健全な青少年育成に寄与することが出来る。
課題・問題点	・学校等との連携体制の構築と、地域住民、農業者の協力による受け入れ態勢の整備。
実施場所	 ・中央干拓地 ・小江干拓地

テーマ	農業体験の場創出
メニュー	宿泊型農業体験施設の整備
実施体制	農業者、行政
事業内容	・干拓地内において宿泊型農業体験を実施するため、宿泊施設や農家住宅における民泊など、受け入れ態勢を整備する。
効果	・交流人口の拡大と地域活性化を図ることができる。 ・地域での回遊性を高めるとともに、滞在の長期化により地域への経済波及効果を高めることが出来る。
課題・問題点	・農業者における民泊インセンティブの創出。 ・諫早湾干拓地内及び周辺における夜間の楽しみ創出。
実施場所	 ・諫早湾干拓地全域

テーマ	農業体験の場創出、環境学習の場創出
メニュー	修学旅行の誘致
実施体制	農業者、地域住民
事業内容	・干拓や地域住民の生活の歴史、環境保全型かつ大規模農業、閉鎖性水域における新たな生態系の創出など、諫早湾干拓地独特の誘客テーマを明確にした修学旅行誘致を実施する。 ・学習テーマとしては、「太陽光発電、バイオマスの農業への活用についての学習」「大規模農業の体験」「干拓の歴史について」などが想定される。
効果	・交流人口の拡大による地域活性化。 ・訪問経験によるリピーターの育成。（子ども達が成長した際に再度観光で訪れる。） ・農業体験、環境学習が一つのストーリーの中で学ぶことが出来る。
課題・問題点	・受け入れ態勢の整備（ガイドなどの人材育成）。 ・大型バス等の駐車スペースの確保。 ・諫早市内における宿泊施設の整備。
実施場所	 ・諫早湾干拓地全域及び周辺地域

テーマ	環境学習の場創出
メニュー	ビオトープの設置
実施体制	地域住民
事業内容	・ 自然干陸地内にビオトープを設置し、自然環境学習の場とする。 一般的なビオトープは学校構内等に人為的に作り出された自然生態系の観察施設であるが、諫早湾干拓地におけるビオトープについては、自然干陸地の自然環境内に、その縮図として生態系を再現することで、精度の高い環境学習を実現する。 
効果	・ 交流人口の拡大による地域活性化。 ・ 地域における環境学習の場を創出するとともに、諫早湾干拓地において生まれた新たな生態系について学ぶことが可能となる。
課題・問題点	・ ビオトープ設置、管理体制の整備。
実施場所	 ・ 小江干拓地（干陸地）

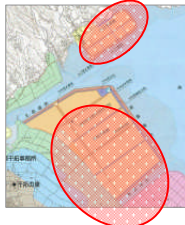
テーマ	健康づくりの場創出
メニュー	ウォーキングコースの整備
実施体制	行政、地域住民
事業内容	・中央干拓地における内部堤防上を舗装することにより、ウォーキングコースとして整備し、健康づくりの場として活用する。 ・コース上には、基点や基点からの距離を路面に標記し、それぞれの体力などに応じたウォーキングを可能とする。 ・夜間でもウォーキングを可能とするため、街灯を整備する。街灯については、小型の太陽光発電や風力発電を利用する。 (ウォーキングコースのイメージ)
効果	・地域住民等の健康増進を図ることができる。 ・諫早湾干拓地を地域住民の憩いの場としての雰囲気醸成する。 ・交流人口拡大により地域活性化を図ることが出来る。
課題・問題点	・中央入口側の旧堤防については、舗装整備の予定がなく周回することが出来ない。 ・来訪者の駐車スペースの確保。
実施場所	・内部堤防道路 ・幹・支線道路

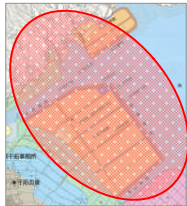
テーマ	趣味、スポーツの実施場所提供
メニュー	マラソン大会等の実施
実施体制	地域住民、民間団体など
事業内容	・ 内部堤防上のウォーキングコースや潮受け堤防道路において、多良岳、雲仙普賢岳、諫早湾といった景観を楽しみながら走ることの出来るマラソン大会、駅伝大会を実施する。 ・ 近隣市町と連携したツーデーマーチの実施。
効果	・ 交流人口の拡大による地域活性化。 ・ ウォーキングコースとしてのイメージ確立。
課題・問題点	・ 舗装道路の幅員が限られている事による安全性確保。 ・ 農業者による農作業との調整が必要。
実施場所	 ・ 内部堤防道路 ・ 潮受け堤防道路

テーマ	趣味、スポーツの実施場所提供
メニュー	観鳥施設等の整備
実施体制	行政、地域住民
事業内容	・ 自然干陸地に数多く飛来する鳥類の観察ポイントとするために、干陸地内に干陸地全体を眺望できるような展望観鳥施設を設置する。 ・ 干陸地に飛来する鳥を紹介した案内板を設置する。 ・ 観察ポイントマップ作製する。
効果	・ 野鳥愛好家をはじめとした交流人口の拡大が図られる。 ・ 自然環境に対する意識醸成を図ることが出来る。
課題・問題点	・ 極力自然を壊さない形での施設整備が必要。 ・ 多くのバードウォッチャーが一度に訪れ場合の施設利用ルールが必要。
実施場所	 ・ 自然干陸地 ・ 潮受け堤防道路周辺

テーマ	趣味、スポーツの実施場所創出
メニュー	ラジコン飛行場の整備
実施体制	行政、地域住民
事業内容	・ラジコン飛行機を飛ばすには広大な土地が必要であり、九州内にも北九州などラジコン飛行場は非常に少ない。 そこで、小江干拓地側の自然干陸地の広大な駐車スペースと広場を利用しラジコン飛行機用の滑走路を整備する。このことにより、西日本を中心としたラジコン飛行機愛好者の誘客 
効果	・交流人口の拡大 ・全国大会の実施等により更に多くの経済波及効果が期待できる。 ・賑わいの創出ができる。
課題・問題点	・安全性の確保。
実施場所	 ・小江干拓地（自然干陸地）

テーマ	憩いの場創出
メニュー	エコ・レストラン等の設置
実施体制	民間企業、農業者など
事業内容	・ 中央干拓地内に、干拓地で栽培された野菜や養殖された鰻、スッポンなどを提供するレストランや直売所を設置し、地産地消と諫干ブランド確立を促進する。 ・ 農業体験等で収穫した野菜を持ち込み調理してもらえるような仕組みも作る。 ・ レストランで使用するエネルギーも可能な範囲で太陽光、バイオマスを活用することで、環境に優しい「エコ・レストラン」とする。
効果	・ 来訪者のリピーター化や地産地消の推進が図られる。 ・ 諫早湾干拓地の訪問インセンティブとなる。
課題・問題点	・ 干拓地内の営農者からの仕入れ体制の構築。 ・ 来訪者の駐車スペース確保。
実施場所	 ・ 内部堤防（前面）など

テーマ	憩いの場創出
メニュー	干拓地内案内サインの整備
実施体制	行政
事業内容	・ 広大な干拓地には、同じようなほ場が広がっており、来訪者は自身の現在地を把握することが困難であり、道に迷う可能性があるため、干拓地内に自動車用の案内表示を整備する。
効果	・ 来訪者の快適な干拓地見学が可能となる。 ・ 快適性向上によりリピーター化が図られる。
課題・問題点	・ 景観に配慮した案内表示にする必要がある。
実施場所	 ・ 中央干拓地 ・ 小江干拓地

テーマ	憩いの場創出
メニュー	干拓地観光マップの作成
実施体制	行政、民間団体
事業内容	干拓地内における営農者の紹介や農作物の栽培状況、周辺地域において自然水を汲める場所、食事の出来る店など干拓地やその周辺を回遊してもらうための基礎情報を集約した干拓地観光マップを作成する。
効果	- 来訪者の回遊性向上が図られる。 - 干拓地を中心とした観光ルートを提案できる。
課題・問題点	干拓地内外における観光資源の掘り起こしと整理が必要。
実施場所	 諫早湾干拓地周辺全域

テーマ	憩いの場創出
メニュー	花畑の設置
実施体制	農業者、民間団体
事業内容	・夏場の農作物があまり取れない時期において、ほ場全体にひまわりや菜の花を植栽し景観形成を図る。 ・また、それらを利用して巨大迷路などを作り、遊技性も付加することで家族連れでも楽しめる空間とする。
効果	・子供から大人まで楽しめる仕掛け作りにより、交流人口の拡大が図られる。 ・ひまわり、菜の花から取れる種を食用油の原料やバイオマス燃料の原料として有効活用できる。 ・食用油としての活用において、干拓地で収穫された農作物をそこで作られた油を使って加工、調理することで、純諫干産特産品としてブランド化の一助となる。
課題・問題点	・営農者の理解と協力が不可欠。
実施場所	 ・中央干拓地 ・小江干拓地

テーマ	憩いの場創出
メニュー	ユニバーサルデザインの導入
実施体制	行政
事業内容	・ 木道、展望台、休憩所など干拓地内における全施設にユニバーサルデザインを導入し、全ての人が干拓地を楽しめるようにする。
効果	・ 交流人口の拡大
課題・問題点	・ 木道、展望台などのバリアフリー化。
実施場所	 ・ 中央干拓地 ・ 小江干拓地

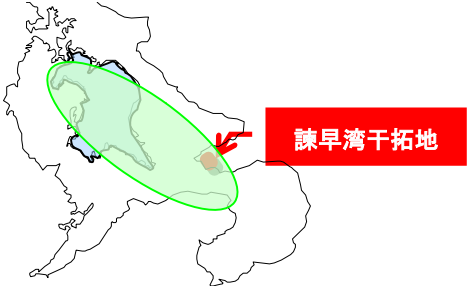
テーマ	憩いの場創出
メニュー	各種イベントの開催
実施体制	地域住民、民間、行政
事業内容	・ 自然干陸地（小江地区）をイベントスペース、駐車スペースとして活用し、地域の祭りや野外コンサート、各種イベントを実施する。
効果	・ 交流人口の拡大 ・ 地域住民などに干拓地に親しみを持ってもらえる事が出来る。
課題・問題点	・ 固定したステージ等の設置が不可能
実施場所	 ・ 小江干拓地

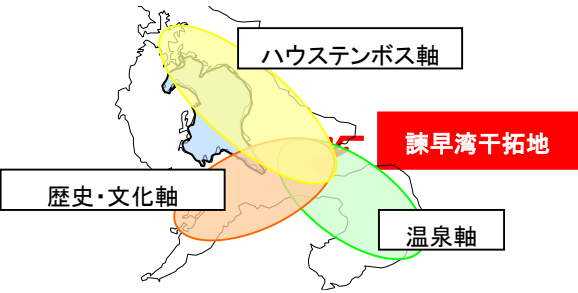
テーマ	歴史伝承
メニュー	干拓の歴史資料館の強化
実施体制	民間企業
事業内容	・現在、諫早湾干拓の歴史に関する資料については、諫早ゆうゆうランド干拓の里に設置されている「干拓資料館」及び諫早湾干拓堤防道路管理事務所に展示されている。 - 今後はこれらを1カ所に集約し、諫早湾干拓歴史資料館として干拓の歴史を伝承する拠点施設とする。
効果	・歴史資料や人的資源を集約することで、利用者の利便性と提供するサービス、情報の質を高めることが出来る。
課題・問題点	・資料館の運営体制構築 ・学芸員等の人材確保など調査・研究体制の構築
実施場所	 ・干拓の里

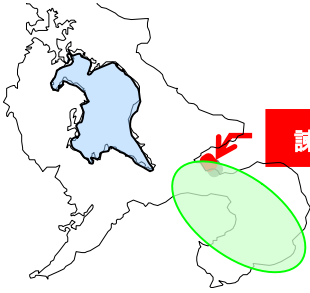
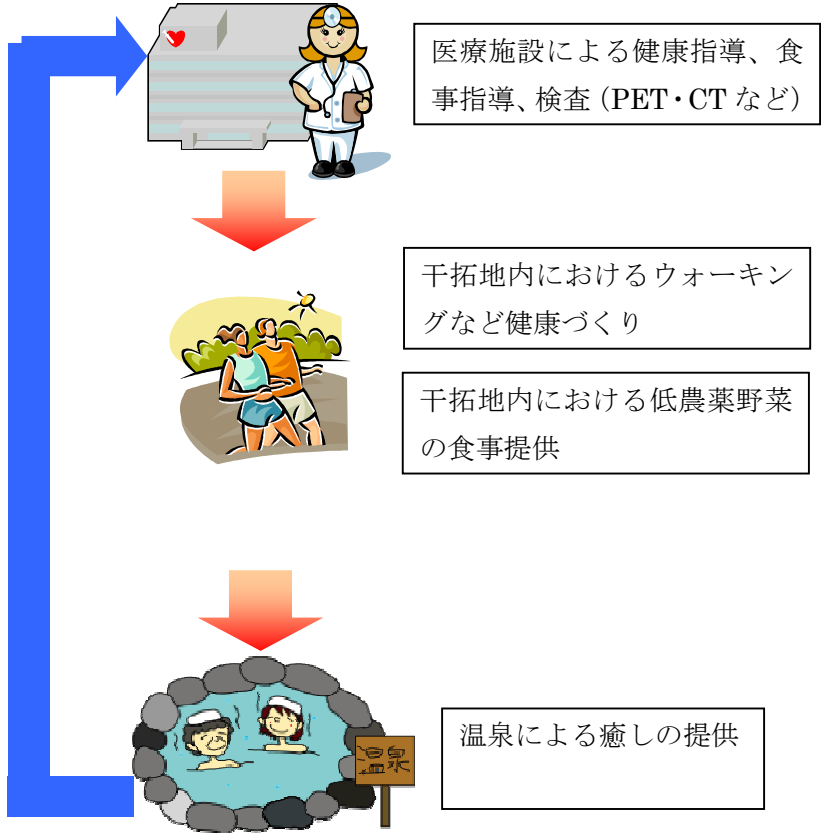
テーマ	歴史伝承
メニュー	観光ガイドの育成と組織化
実施体制	民間
事業内容	- 観光客が地域の歴史を肌で感じ、感動、共感を得てもらうためには、地域に根付いた観光ガイドの存在が必要不可欠となる。 - そのため、諫早湾干拓地についても、観光ガイドの育成とガイドの組織化を実施する。
効果	観光客の満足度向上とリピーター化が図られる。
課題・問題点	- 人材育成 - コミュニティビジネス化による財政的裏付けの確保（継続性確保）
実施場所	 干拓の里

(b) 諫早湾干拓地を中心とした広域による地域開発メニュー

テーマ	観光メニュー	概要
環境	水環境をテーマとしたニューツーリズムの推進	環境保全型農業の推進、閉鎖性水域における水環境保全という共通のテーマに取り組んでいる大村市と連携した観光ルート創出を図る。
	外国人観光客の誘客推進	大規模農地造成による環境変化、生態系創出の事例研究地としての諫早湾干拓地及び周辺市町の観光資源との連携による誘客インセンティブの創出を図る。
健康	健康と運動と癒しのロングステイ観光の実現	諫早市内の病院と連携した検査(PET/CT)及び健康増進、干拓地におけるウォーキング、近隣の温泉での癒しによる長期滞在型の観光商品の造成。
スポーツ	スポーツ合宿誘致	スポーツ合宿においては、練習施設や食事が重視される傾向がある。 諫早市においては長崎国体に向けた施設整備が進むことが予想され、食事についても諫早湾干拓地における低農薬野菜等の提供が可能である。

テーマ	環境
メニュー	水環境をテーマとしたニューツーリズムの推進
実施体制	民間
実施エリア	諫早湾干拓地周辺及び大村湾周辺 
事業概要	諫早湾干拓地、大村湾周辺における共通テーマである「循環型農業」「閉鎖性水域における水環境保全」についての観光ルート、観光メニューを造成し、観光客の回遊性と満足度向上を図るニューツーリズムの展開。 ■大村湾 ・西海橋の渦潮 ・スナメリ観察 ・県立自然公園にも指定された美しい自然景観 ・戦争遺構 ■諫早湾（調整池） ・自然干陸地 ・淡水化による新たな生態系の誕生 ・多種多様な鳥類、魚類、貝類の観察

テーマ	環境
メニュー	外国人観光客の誘客推進
実施体制	民間
実施エリア	・ 諫早湾干拓地 ・ 長崎市内 ・ ハウステンボス ・ 島原半島 
事業概要	大規模農地造成による環境変化、生態系創出の事例研究地としての海外からの誘客を図る。 また、訪れた外国人観光客を周辺観光地へ回遊させるためのテーマ設定を行う。 ■長崎市内 ・ 世界遺産候補の教会群を中心としたキリスト教文化に触れるコース ・ 平和学習コース など ■島原半島 ・ 小浜温泉、雲仙温泉を中心とした温泉コース など ■ハウステンボス ・ ハウステンボス周遊コース ・ 大村湾周遊コース など

テーマ	健康
メニュー	健康と運動と癒しのロングステイ観光の実現
実施体制	民間企業、農業者
実施エリア	諫早湾干拓地周辺及び島原半島  諫早湾干拓地
事業概要	諫早市内の病院と連携した検査(PET/CT)及び健康指導、干拓地におけるウォーキング、低農薬野菜の提供、近隣の温泉での癒しによる長期滞在型の観光商品の造成。 <商品イメージ>  医療施設による健康指導、食事指導、検査 (PET・CT など) 干拓地内におけるウォーキングなど健康づくり 干拓地内における低農薬野菜の食事提供 温泉による癒しの提供

テーマ	スポーツ
メニュー	スポーツ合宿誘致
実施体制	民間
実施エリア	諫早湾干拓地周辺及び島原半島 
事業概要	スポーツ合宿においては、練習施設や食事が重視される傾向がある。諫早市においては長崎国体に向けた施設整備が進み、干拓地内の堤防道路等を活用した陸上競技などの合宿を誘致する。また、食事についても諫早湾干拓地における低農薬野菜等の提供が可能である。 また、練習後の宿泊については、島原半島における温泉地を活用することで、疲労回復、温泉療法も可能とする。